

飯野ビル全景



ビル正面入口から受付フロアまでの
直通エスカレーター



双日(株) オフィス 周辺の案内図

〒100-8691 千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング



地下鉄アクセス メトロ千代田線・丸ノ内線・日比谷線「霞ヶ関」下車、出口C4
メトロ銀座線「虎ノ門」下車、出口9

＊ ＊ 2023年度ニチメン東京社友会総会・懇親会開催のお知らせ ＊ ＊

2023年度ニチメン東京社友会総会・懇親会を下記要領で開催致します。皆さま、奮ってご参加下さい。

開 催 日 ： 2023年 **7月13日** (木) 開会 **11:30AM ～ 13:30**
注) 会場は11:00AMから開けておきます。

会 場 ： **双日株式会社本社・21階 大会議室**
東京都千代田区内幸町2-1-1 (飯野ビル内)
注) 会議室使用に際してのコロナ禍対応の制限はありません。

アクセス (メトロ) :

* 千代田線・丸ノ内線・日比谷線「霞ヶ関」 **出口C4方面**へ進み、
通路天井の案内板に従って、館内エスカレーターで **3階オフィスロビー** 迄。

* 銀座線「虎ノ門」下車、 **出口9**。飯野ビルまで徒歩5分程度。

会 費 ： **無 料** (飲物、軽食を用意致します。)

服 装 ： 軽装で御来場ください。マスク着用は自己判断。

特記事項

A A A 同封のハガキで **出欠** をご返事下さい。 **締切 6月23日(金)必着。**

B B B このビルはセキュリティ確保のため、**入館カード** が必要です。
3階ロビーの双日(株)受付付近で待機している社友会担当世話人に氏名を告げて、このカードを受け取った上、ゲートを入れて下さい。
ゲート出入りの要領は、SUICAやPASMOの使い方と全く同じです。
また、このカードは退館の時も必要です。それまでは必ず手元に保管下さい。

* その他、お問い合わせは、「世話人一覧表」記載の世話人か、または、社友会事務局にお寄せ下さい。FAXは03-6858-7216、Eメールはmenkwa@sojitz.comです。

挨拶

会 長 石 原 啓 資



会員の皆様、お変わりございませんか？

2020年新年会開催後、皆様方と一堂に会する機会を設定できず既に3年以上の年月が過ぎました。お寂しい思いをされていること申し訳なく思います。

4月中旬にオンラインにて世話人会を開催し、政府の新型コロナ対策が緩和される方針決定になり、双日の対応がコロナ前に戻されていることも勘案し、2023年総会・懇親会を通常の形での開催可能との判断に至りました。久方ぶりに皆様方とお会いできる日が設定できこの上ない喜びです。世話人全員が最善を尽くし、おもてなしさせていただきます故、数多くの会員の皆様方のご出席を賜りたくお願い申し上げます。

私事で恐縮ですが、今年になりコロナ前に出席していた催しが再開され招集の案内をいただいています。世の中も通常に戻り出したのかと身をもって感じています。先日ちょっとした用件で東京駅に行きました。日本人、外国人問わず大勢の人でごった返していました。最近までコロナで騒いでいたのが嘘のようです。然し、未だ新規感染者数が公表されウィルスは下火になったとは言え、まだまだ警戒は必要だと思います。本年の総会・懇親会を通常形式にて行う予定ですが、感染対策には充分配慮し皆様方のご健康を最優先させていただきます。ご協力お願い申し上げます。

今、世の中での出来事が多く私の頭の中が混乱しています。ロシア・ウクライナ戦争は未だ継続しています。チャットGPTなる新語が盛んに報道されています。辞書で調べたら「Generative Pre-trained Transformer」で「生成可能な事前学習済み変換器」と説明されても難しく理解できませんが、過去のデータを活用して的確に答えてくれるシステムと理解しました。チャットGPTがいろんな分野で利用され不正が横行するので規制しようとの動きもあります。頭から否定するのではなく、チャットGPTを使いこなす人間の知恵を養うことが必要ではと思っています。

先日、衆参補欠選挙と地方首长議会選挙が行われ、日本維新の会が躍進したと報じられています。地方議会で議員数を増やし実績を残し国政に躍進しようとの手法が前進しているのではと思います。日本維新の会の主張の一つは「無駄を無くそう」詰まり歳出を検証し、より必要な支出にお金を回そうとの考えだと認識しています。今議論されている異次元の子育て政策に必要なお金を社会保障費から捻出しようとの政府方針、経済界から消費税の検討などがこれらの議論になろうとしています。これこそ日本維新の会の考えを真っ当に貫き、歳出の見直しを真剣に行い足らずまいをどうするか？この議論にならないのか不思議です。歳出が益々増え、国家財政の更なる赤字が膨らむのみです。日本丸何処に行く？ また、地方議会選挙では無投票で議員になるケースが多く議員のなり手が少なくなっているとの報道を耳にしますが、

定員数削減を検討する必要があるのではと感じています。東京都での区・市議会選挙では若い女性の当選者が増え新陳代謝が進んでいます。日本が戦後歩んできた、敗戦からの復興、高度経済成長期、オイルショック後の経済低迷、JAPAN AS NO.1と持て囃されバブル経済で浮かれ、バブル崩壊後30年強経済成長が低迷し今に続いています。戦後80年近く全く変わっていない仕組み、全く変わろうとしない組織、これらに金属疲労が生じ世界の常識から取り残されている現状から脱却し、人口減少を見据えた将来有るべき姿を想定し新たな国造りに取り組むべきと痛感しています。健康を維持し長生きし新しい日本の息吹の生き証人になりたいと思います。

この文章が皆様方に届く前にロシアのウクライナ領土侵略が収まればうれしいのですが、現状収まる気配が伺えられません。水面下で終戦に向けどのように動いているか全く推測できませんが、主権国家に武力攻撃して領土を奪うことが許されてはなりません。その為にロシアに敗北を認めさせる行動に出るべきだと考えます。長期化すればするほどロシアに有利になると思います。西側諸国が一致団結してロシア軍をウクライナ国境外に追い出すべく早期な実行が不可欠でしょう。ウクライナ領土に早急に平和が来ることを祈るしか方法ありません。

消費者物価の値上がりを実感しています。電気代、ガス代の値上がり、食料品の高騰が毎日の生活に打撃を与えています。何時になったら安定するのか？分かりませんが、インフレが進んでいることは事実でいつまで低金利政策が続くのか？行き詰まり感が拭えぬ感覚です。我々お年寄りには知恵を絞りながら楽しく毎日過ごすことが肝要かと思っています。

景気の良い話題を沢山耳にします。インバウンドの復活で旅行、百貨店での高額商品の売れ行きが好調で業績が向上しています。資源高騰等にて商社業界が好景気で業績を大幅に改善されています。双日株式会社も過去最高純利益額を更新され昨年度業績を発表される見込みと聞き及んでいます。強固な収益基盤を固め益々業績拡大に邁進していただけることと信じています。

我がニチメン東京社友会会報は今回で34号になります。年2回発行していますので発行して17年経過いたしました。長い間皆様方に支えられ年月を重ねて参りました。これからも続く限り世話人一同ニチメン東京社友会の運営に努力させていただきます。会報への寄稿、社友会運営へのご意見等々、会員の皆様方にご協力を賜り、楽しんでいただける会運営を目指してまいりたいと思っています。

今年の総会及び懇親会は7月13日（木曜日）を予定しています。コロナとの共存政策が変更されず、予定通りに開催できることを祈念して筆を置きます。

皆様方との再会を楽しみにしております。

以 上

会員寄稿文

憧 憬
神聖ローマ帝国から見た古代ローマ帝国

竹 内 可 能

神聖ローマ帝国

尊厳なドイツ皇帝として名をはせたオットー一世だが、彼が抱いていた夢は、「ローマ帝国の復興」だったという。それが証拠には彼が使用していた印璽には、まさしく「ローマ帝国の復興」という表記が刻まれている。

その彼は西暦962年に教皇ヨハネスによってローマにて戴冠、爾来神聖ローマ帝国が成立したとされている。古代ローマ帝国(西)の滅亡は西暦476年とされるから、それから数えればおよそ5百年が経っていることになる。オットー一世以降のドイツの諸侯たちは、こぞって「ローマ人の王」という称号を名乗っていたらしいから、この事実からしても、いわゆるドイツ人が如何に古代ローマ帝国に強い憧憬を感じていたか、容易に推し量ることができるというものである。

「憧憬」といえばこのわたしも、その著者でもある塩野七生の「ローマ人の物語」の大ファンとして、世界の歴史のなかで最もあこがれる国はと問われれば、古代ローマ帝国において他にはないといえる。とりわけ今日われわれが目当りにしている米国と中国という超大国間の軋轢を思うとき、二千年も昔に栄えた古代ローマ帝国のことが想起されてくる。なぜか。

自由と民主主義

のっけから少しく本題から離れてしまうようだが、古代ローマ帝国といえば、わたしの頭の中で響き渡るのは、壮大なギリシャ文明をふくめて、これら歴史の中で市民たちが展開した「自由と民主主義」という理念へのあくなき希求であった。

さる第二次世界大戦で敗戦国に堕したわれわれ日本人が、そのとき「自由と民主主

義」という目の覚めるような理念を知ったのは、まぎれもなく戦勝国アメリカからのものだった。それがどうだ、あれから一世紀も経たないというのに。

そのアメリカという国において、われわれが実際に目にしたものは、つい昨日まで大統領だった人物の扇動一つによって、暴徒と化した連中がこともあろうに、アメリカ連邦議事堂になだれ込んだ事件であった。

われわれ日本人には、もはやアメリカには「自由も民主主義」も眼前から吹っ飛んで消えてしまったかに思えた。そればかりではない。アメリカ前大統領だったという人物が、結果としてはしがない小悪魔だったにしても、民主国家ならあり得ない話ではない。しかし、その人物が今なお共和党内において自身の政治基盤は揺るがないばかりか、次の大統領選挙にも打って出ようとしている気運にあると聞いて、あきれてものも云えないのである。もはや問題は自由だの民主主義どころの話ではない。アメリカではそんな価値観よりも、まことしやかな陰謀論や嘘っぱちの横行問題をはじめとして、国民各層の分裂回避が先決のようにすら見える。

ならばその一方で、習近平による中国の専制主義的な国家のありようはどうかといえば、それはもう中・台問題を持ち出すまでもない。先の香港の民主化運動抑圧といい、ウイグル地区での人権問題といい、そこには自由も民主主義もあらばこそ、あるのは頑迷な専制主義だけである。その専制主義は何ということはない。それはかつて毛沢東主席が学んだマルクスの社会主義だったはずだが、今になって見ればこの理念の実行者が労働者・農民主導というところが、実際には共産党エリート集団に取って代わられたという代物であった。要すれ

ば時代遅れの遺物にすぎているところに中国の危うさがある。

陸上競技のトラックに例えれば、今の中国は世界のマラソンランナーとして競技場に飛び込んで来たが、先頭のアメリカに次いでいるとしても、アメリカには周2～3回は遅れている。香港や台湾、それにウイグルだのチベットで、中国がこんな時代遅れの物騒な対策で臨んでいるのは、世界の歴史に学ぼうとはしないれっきとした証拠ではないかと私は考えている。

「ローマ帝国の復興」

話を本題に戻さなければならない。

わたしが筆を取ろうとしたのは、表題にもあるように神聖ローマ帝国から見た古代ローマ帝国だからである。冒頭にオットー大帝を持ってきたのもそのためであったし、その大帝が立国に際して夢見たのが「ローマ帝国の再興」だったことは既述のとおりである。ドイツ帝国のことを最初に「神聖ローマ帝国」という呼び名を使ったのは、他でもない、かの有名な皇帝フリードリッヒ二世の祖父、バルバロッサ（赤ひげ）帝であった。彼が「ローマ」に「神聖」という言葉をくわえて新たな称号としたのには、まさにあの叙任権闘争（カノッサの屈辱）以来ひびが入りっぱなしの「帝権と教権」の間で、帝権こそ神に直結する、神聖なものという帝国の意思が込められていたのだ。12世紀後半のことであった。

フランク王国（カロリング王朝）

しかし「古代ローマ帝国の再興」を夢見ていた男たち、というならばオットー大帝の前後にはヨーロッパにおいてかなりの諸侯・魁偉がひしめいていた。なかでも8～9世紀にわたってフランク王国を築き上げたカロリング朝のことは、代表格のこれまたつとに有名なカール大帝（シャルル・マーニュのこと、在位768年～814年）をはじめ、ここに触れておかねばならないことが多い。カロリング朝といえばその前身はメロヴィング朝であり、ザクセン朝のオットー大帝といえども、カロリング王朝の直後に来る一重流といえなくもない。もとはといえばす

べからく、北東ゲルマン民族のいずれかに属していたからである。

その伝で申し上げれば、カール大帝に代表されるカロリング王朝こそ、まがりなりにも古代ローマ帝国を継いだ王国だったといえようか。今日EUの起源論のなかで、必ずと言ってよいほどにフランク王国がとりざたされるのは、それほどまでにカロリング王朝、とりわけカール大帝の事績に負うところ大なるものがあったのかもしれない。そのカール大帝の時代、彼の統制下にあったとされる版図として、東はエルベ川、西はピレネー山脈、北は北海に至るまで、南は中部イタリアに広がる広大な領地の展開があった。今日のいわゆるイングランドとスカンディナヴィアを除けば、全ヨーロッパ支配ともいえた。

ピピン三世の寄進

カール大帝の版図について述べるついでに、彼の父ピピン三世が西暦754年、ローマ法王ステファヌスに約束した「ピピンの寄進」に触れておかなければならない。このときピピン三世はイタリアに遠征、当時東ローマ帝国に代わって北イタリア地方を収奪していたランゴバルド族（ゲルマン民族）と戦い、これを制圧した。ピピンはこうして取り返した領地の一部を法王領として法王に寄進を約束したのであった。

このことはヨーロッパ王権とローマ法皇権の同盟の成立として、後世歴史的にも重要視されている。カール大帝側としても祭司国王としての、そして版図統制に欠くべからざる宗教的な権威確立に、多大な期待がかけられたことは云うを待たない。それはまた法王側にしてみれば、イタリア中部の教会領主権および、教会による司教権（法皇権）の確立という、願ってもない期待の実現であった。

しかしこのことが、後代の神聖ローマ帝国にとって、とりわけ反キリスト教かともまで恐れられた希代の皇帝フリードリッヒ二世にとっては、何より重い足かせになったことは後述するとして。

ヴェルダン条約とメルセン条約

これらのこむつかしそうな条約を持ち出したのは、なにも高校の教科書にも記載があるからというのではない。この二つの条約がドイツとフランスという二国の境界線の始まりというだけではなく、わたしがこれから描こうとする、神聖ローマ帝国の、古代ローマ帝国に抱いてきた憧憬の物語のきっかけとしたいからである。

カール大帝の後を継いだフランク国王はルイ敬虔王（ドイツ名ルートヴィヒ、在位814～840年）だったが、この王の息子たちへの領国相続権に深刻な問題が発生した。後継を長子と決めながら、他方で年下の息子たちにバイエルンとアキテーヌといった小王国を分け与えようとしたのがもとで、兄弟間に争いが発生したのだ。この解決案が843年のヴェルダン条約である。それによれば長子ロタールにはフリースランドから、ローマ法王領に至る王国の中央部、東はライン川とアルプス、西はスヘルデ川、マース川、ソーヌ川、ローヌ川をつなぐ境界線とするにあった。つまりは弟たち二人には、ひとりにはローマン・ガリアの西部を、もうひとりにはアウストラシアの中核部分とゲルマン諸族の土地である東部を、肝心の長子には宮宰所在地のアーヘンと法王所在地のローマをむすぶ最重要領域を分け与えることとした、これまたあとあと問題となる分割方式であった。

因みにその後870年に締結され「メルセン条約」は、結局ロタール王国がいまのフランスとドイツの分割につながる妥当な境界線のもととなった。いずれにしても、カロリング家にしてみればフランク王国は自分の財産と心得ていたのである。

少しこみ入ってきて恐縮だが、上記をより詳しく知りたい方々には、私が参考にした堀越孝一の「中世ヨーロッパの歴史」を参照願うとして、ここに両条約の分割地図をそのまま転記し、併せて私の注釈を下記のように付け加えておくとする。

既述のようにカロリング王朝はメロヴィング王朝の後身であるばかりか、フランク

王国としては両朝ともに同じ北ガリアの地に起こったゲルマン族の王朝には違いない。その当時（6世紀ごろ）これら両朝には共通の三つの分国地域が自然成立しており、それぞれの分国に置かれた宮宰（今でいう王朝の執事長）とともに、下記のような呼び名が使われていたことに留意願いたいからである。



フランク王国の分割

- (1) 「アウストラシア分国」メッツを首都として、シャンパーニュを中心にマース川とモーゼル川の流域、それに加えてライン川の東を支配した。
- (2) 「ネウストリア分国」パリを首都として、スヘルデ川からロワール川にいたる北ガリアの地域
- (3) 「ブルグンディア分国」オレルアンを首都として、ロワール川とローヌ川の上流地帯。

再び神聖ローマ帝国

以上少しフランク王国のことを語り過ぎたきらいはある。もともと古代ローマ帝国が衰亡して以来直ぐ後に来たフランク王国ではあったが、しかし塩野七生も云うようにローマ帝国の衰亡は、たとえば何々会戦敗北とかいった、「偉大な瞬間」がもたらしたものではない。人間でいえば単なる老衰であったかもしれない。結果としてはフランク王国が後を継いだこととされてはいるが、それでもわれわれ日本人にはこの王国のことはあまりよく知られていないことが多い。

メロヴィング朝もカロリング朝にしても、フランク王国はローマ帝国滅亡への備えが全くできていなかったうらみも残る。だからこそ堀越孝一もいうように、ローマン・ゲルマニアの夢がフランク・ゲルマニアの形で実現したことになるのだろう。フランク王国の「夢」とはすなわち、ローマン・ガリアの潜在的な欲望、つまりは「ローマ世界の復活」であった。それはしかし所詮は夢であり憧憬であった。

その夢を夢ではなく、生易しい「ローマ世界の復活」どころの話ではなく、現実「ローマ帝国の復興」をめざし、終生これに取り組むことになる皇帝が現われたのである。13世紀初頭、それも神聖ローマ帝国においてのことであった。その皇帝の名は言わずと知れたフリードリッヒ二世、祖父は先に述べた神聖ローマ帝国皇帝の赤ひげ王ことバルバロッサ。父親は早くに亡くなった皇帝ハインリッヒ六世、母親はノルマン系イタリア人ルッジェーロ二世の娘コスタンツア。わたしが社報30号でも紹介した男である。

大事業を成すには「天の時、人の和と地の利」が必要とされると決まっている。皇帝フリードリッヒ二世はこれらの条件に恵まれていなかったのか。

結論から申せば彼は50歳を越えたところで病没した。「ローマ帝国の復興」という空前の大事業を前にしての、それも志半ばの死と云えた。しかし、人がもし「天の時」というならば、その余りある無念の早い死をのぞけば、皇帝フリードリッヒ二世には勝機は十二分にもあったとわたしは考えている。わたしはむしろ彼には天の時が味方していたと考える者である。

なぜならば、フリードリッヒが終生闘ったのはローマ教皇であった。もっといえば、当時ロンバルディア地方に割拠していた反皇帝派の自治都市群(コムーネ)だった。不幸にして世はあげて皇帝派(ゲルフ)と反皇帝派(ギベリン)の対立に明け暮れていたのだ。しかしフリードリッヒには天賦の才というほかはない、希代の能力に恵まれていたことを指摘しておかねばならない。

それは一つには母方のノルマン系の血筋のなせる業というべきか勇猛果敢な政治力、そして三つ目は、当時は極めて先進的だったサラセン文化にあびるほど浴していた、シチリアを含む南伊という自由闊達な育ちが生んだ、抜群・奇抜な思考力である。

これらに加えて、もともと極めて明敏かつ機敏な持ち主だったことは、あえて挙げておかねばならないであろう。こうした三拍子も四拍子もそろった為政者と云う者を、わたしは多くを知らないのである。古代ローマ帝国に一人、あの著名な政治家ユリウス・カイサルを除いてではあるが。そういえば皇帝フリードリッヒ二世が、古代ローマ帝国の魁偉カエサル將軍をどう見ていたのか定かではない。しかしその彼がカエサルの後継者アウグストス帝とともに、一方で「ローマ法大全」の編集で有名な、東ローマ帝国の皇帝ユスティニアヌスを尊敬していたことは、良く知られるところらしい。

法王のアヴィニョン捕囚

終わりに臨んでこむずかしいキリスト教の歴史を語るつもりはない。しかしフリードリッヒが生きた時代の13世紀はどちらかと云えば、教権が皇権に勝る時代ではあった。それでも「天の時」というとき、フリードリッヒが天の時に恵まれていなかったかと問われれば、私はその逆だと答えたい。そのとき持ち出したいのが「法王のアヴィニョン捕囚」事件である。この事件は爾来アヴィニョン捕囚などと揶揄されてきたものだが、フランス国王の差し金で西暦1305年から、法王がローマではなくフランスのアヴィニョンに長く遷居を余儀なくされたものとして有名である。皇権の方が教権にまさるきっかけは眼前に迫っていたのだ。

彼の寿命がもう少し長かったなら、皇帝フリードリッヒの類いまれな思考力、政治力、そして突進力をもってすれば、時代は彼の意図したような「ローマ帝国の再興」も決して夢ではなかったのではないか。そんな風に思えて仕方ないのである。

(完)

会員寄稿文

今だから言おう

高 木 恒 久

冬は厳しいが、夏のモスクワはさわやかだった。7月の月曜日の朝、いつもの時刻にセドリックでオフィスに向かう途中で、私はKGBに逮捕された。

大通りの手前で巡査が呼び止めて、タイヤが変だぞという。見に降りると、私の車の後ろに停まったヴォルガから男が三人出てきて、私に書類を突き付け、同行を求めてきた。あのヴォルガに乗れ、お前の車はちゃんと預かっておくから心配するなという。ヴォルガの後部座席の真ん中に座らされ、両側に男たちが乗った。大通りから横町にはいり、川沿いの道を20分ほど走って、薄茶色のビルに着いた。ビルから出てきた男たちが私を引き取り、ヴォルガの男たちは去って行った。

そのビルは背後に立つ監獄と直結していた。

まずシャワー室に連れていかれ、シャワーを浴びた。おそらく、あのシャワーは、身ぐるみ剥いで所持品を調べるためだったのだろうと思う。地下水を使っているのか、冷たい水だった。ズボンの革のベルトを取り上げられた。そのあと、10畳間くらいの、意外に清潔な独房に連行された。1時間ほど待たされてから、取調室へ移る。

尋問の担当者は軍服姿で、国家保安委員会（KGB）の大佐だと名乗った。顎の張った男だ。おれの名前は西欧では有名だよと付け足し、私の顔を見つめる。名前を聞いて私が驚くのを期待していたのか、反応を読み取ろうとしたらしいが、聞いたことのない名前だったし、今も思い出せない。たぶん、スパイ・キャッチャーとして西側の新聞に載って、それが自慢だったようだ。委員会という名称から、私服で勤務すると

思っていたのだが、実態は軍の一部であり、階位も服装も軍隊調で、秘密警察、諜報活動の機関として世界的に有名な組織である。

いきなり大佐が尋問を始める。

「石炭工業省の局長に大理石の立派な置時計を贈ったな。あの贈り物で何を聞き出した？」

「大理石の時計？ そんなもの、知りません」

「ほう、きみが工業省に頻繁に出入りしているのは分かっている。だれと会っているのかも分かっているが、きみの口から、だれと知り合いか、聞きたいね」

私は局長から下っ端まで知っている名前を7、8人挙げた。すると、最近会ったのは誰で、どんな案件だったか言ってみろという。このやり取りで昼になった。

独房に戻されると、昼食が届いた。粗末な魚スープとパン。私は手を付けなかった。

1時ころ、また取調室に連行された。付き添う看守が、廊下を歩きながら、指をパチンパチンと鳴らす癖があったのを思い出す。

大佐が速記係の女性と入ってきた。薄いファイルを開き、ちらっと見た。

「きみは以前にハバロフスクに来て、鉄鉱床について聞きまわっている。その目的は何だったのか、説明してくれ」

10年以上前の話を持ち出してきたのには呆れたが、同時にそんな昔の私の行動の記録を保存し、それを索引できるKGBの情報管理体制には脅威を感じた。幸い、ハバロフスク出張の記憶は鮮明だった。新しい鉄鉱石の新しい供給源を探していた時期だった。世界の鉄鉱産出国が鉄鉱石を日本に売り込もうと新しい山を開拓している。ニチメンはソ連の鉄鉱石を輸入しているが、ソ

連は新しい鉱床開発の動きがない。ニチメンが資金を提供するから、産出する鉱石で返済すればよい。これを提案しているが、ソ連は腰が重い。このままでは、腰を上げたときには、日本はブラジル、豪州、アフリカ諸国と契約済みで、乗り遅れてしまうことになる。ガリンスコエ鉱床の資料があれば、今からでも遅くない。資料をいただきたいのですと、述べ立てた。これは、今になってみると、わざと論点をずらして相手を混乱させる、落語的な応答だったと言える。

大佐はこれにひっかかった。「待て、未公表の資料を入手するのは諜報活動だ。そういう資料は外国貿易省管轄の貿易公団から入手しろ。それ以外は違法だ」とまじめに答えた。

それから、石炭工業省の局長や次長に賄賂を提供したという情報をつかんでいるぞという。これには思い当たることがあったから、正直に答えた。ええ、クリスマスのお祝いにコニヤックを4本とカレンダー数枚を渡したことがあります。しかし、酒をあげるのは友達付き合いみたいなもので、私もお役人からウオッカをもらったことがありますと答えた。豪華な置時計も渡したはずだと大佐が繰り返し、私は否定を繰り返した。

妙な質問もあった。ニチメンのオフィスのデスクの配置、誰がどの席か聴かせろという。デスクの配置などは、私を逮捕して訊かずとも、現地人雇員に聞けば分かることなのに、なぜ訊くのか、いまだに真意は読み取れないが、あとで知ったが、この同じ日にKGBはニチメンのオフィスの家宅捜査を行っていた。その時どれが誰のデスクか記録したはずで、その記録の裏を取るだけの質問だったのかなとも思う。

2日目の尋問は短かった。大佐に、疑問があるなら、もっと続けて、早く釈放してほしいと頼んだが、無視された。独房に戻せと看守に指示し、私が立ち上がると、「昨

日問題にした置時計の件は忘れてくれ。別の会社が贈ったものだ」と言った。ひょっとすると、容疑は晴れたから釈放してやるよという意味で言ったのかも知れないが、あの時の私にはそんな風には聞こえなかった。

独房に戻ると、窓の外方の光が眩しい。どこから美しい音色が金のように輝きながら、聴こえてきたと思う。バッハだ。無伴奏パルチータ3番の冒頭。なんとも美しい。幻覚だったのかも知れない。

3日目は昼前に呼び出され、この2日間に私が話したことをまとめたメモを渡され、内容に誤りが無いか、読んでみろと言われた。1、2箇所直したが、大した間違いでもなかった。午後になっても、呼び出しはなく、無為の時間が過ぎて行く。私は一昨日の朝、家を出たが、オフィスには現れず、途中でどこかに消えてしまった形になっている。誰も行方を知らない。妻は狂乱状態になっているのではないかと思い、息苦しい。

午後4時、看守が現れ、取り上げていたベルトを私に差し出し、ついて来いという。廊下を通り抜けて、玄関のホールまで来たところで、暫く待たされた。ぼんやり窓の外を見ていると、トヨタが停まり、大使館のA参事官が降りて、玄関に入ってきた。

参事官が看守に外交官パスポートをみせると、看守が書類を一枚差し出した。参事官はその書類をひったくように受け取り、ちらっと見ただけで、行きましようと言った。私は釈放されたのだ。

トヨタに乗って、何から説明すればいいのか分からない。「月曜日の朝、逮捕されて…」と言いかけると、参事官は、大使がお待ちになっているから、あとで聞かせて下さいと言って、目顔で運転手を示した。日本語の分かる運転手らしい。続けて「3日で済んでよかったですね」と言った。大使館にとって、私は旅先で災難に巻き込まれた可哀そうな同胞なのか、それとも厄介な

ことを仕出かした不良在留邦人なのか。

大使館ではまず蕎麦をご馳走になった。3日間碌に食べていなかったから、ご馳走だった。それから、大使館の建物から庭に出て、庭に設営されたテント部屋で大使にお目にかかった。5畳くらいのスペースで、圧搾空気で膨らんだ2重壁に遮音効果があり、床は直接地面なので盗聴器が入り込む余地がないから、一番安全な場所ですよと教えて下さる。

私はある同僚の話をした。一時期は非常に親しく、楽しい仲間だったが、夜遊びが好きで、一人で遊びまわっているうちに、何度か官憲ともめることがあった。それが繰り返されるうちに、官憲と接触するのに慣れてしまったようだ。あるいは官憲に脅かされたのかも知れない。あるとき、どういう心境だったのか、おれ、KGBのエージェントだよと私に告白し、絶対に誰にも言うなよと釘を刺した。こんな告白を聞かされたら、今まで通りのざっくばらんな付き合いは難しくなる。

彼は、以前に所長だった人のことをKGBに密告している。その人は西欧に出張すると闇ループルを安値で仕入れて持って帰ってくる。彼の密告で前所長はモスクワ空港で4時間調べられ、その後国外追放になった。

現在の所長とその同僚とは、こじれた陰悪な関係にあった。所長は私に何とかこじれを解消してくれと言うので、困った。仕方なしに、このモスクワであの男と対立するのは危険です、以前に所長だった人は彼の工作で国外追放になっているのだからと説明し、彼とKGBの関係は絶対極秘ですよと念を押した。この情報の危険性を所長が十分理解したと思っていたのだが、間違っていた。所長は同僚と口喧嘩になったときに、お前がエージェントなのは聞いてるぞと言ってしまった。これで、同僚は私がしゃべったのだと推測した。

ある週末、オフィスに出て、テレックスを読んでいたとき、同僚が現れた。私を見るなり、「所長にしゃべったな。はっきり言うておくが、もし何かがお前に起こったら、お前自身が掘った穴に落ちたのだと知れ」と言った。

これには、私は怯えたが、KGBのような大組織が私のような一駐在員、いわば雑魚に網をかけることもあるまいと思った。他方、あれほど繰り返し、あの男がスパイだということは絶対秘密だと説明し、分かったよと答えていたのに、ことの重大さを全く理解していなかった所長の知能程度に愕然とした。あの愚かしい軽率さには、ほぼ半世紀経った今もむかつく。

この経緯を説明しても、大使は驚いた気配も見せず「密告されたわけですね」と言った。それに続く大使の言葉に、私のほうが飛び上がるほど驚いた。大使館はかなり前からあの駐在員はKGBの手先だと知って、それなりの注意を払い、お宅の所長さんにも、あの男は帰国させるべきだとの意見を参事官から申し上げている。御本社にも大使館の「注意」が伝わっていない筈はないと思うが、帰国させず、ここに置き続けたのは御社なりの判断があるのだろうと見ていたという。

帰りがけに、車まで付き添ってくれた参事官が「あの人がカーゲーバー（KGB）の仕事をしていると、僕がお宅の所長に伝えたのですけどね」と言った。

釈放の翌日、外国貿易省儀典課の係がオフィスに来て、私のパスポートを持って行った。夕方に返してくれたが、長期ヴィザに＜失効＞の捺印があり、その横に＜7日間滞在許可＞とペン書きされ、出入国管理局の印鑑が押されていた。国外追放というのは、機内まで係官に付き添われて即刻追い出されるのかと漠然と考えていたが、こんな風に家財を始末するための1週間は

くれるものらしい。

いま当時のことを思い出しながら、おかしなことに気が付いた。あの同僚が「所長にしゃべったな」と私を脅したとき、彼は所長の情報源は私だけだと思っており、大使館も以前から彼のKGBとの接触を把握していたことを知らなかったようだ。つまり、なぜか、所長は「大使館からも聞いたぞ」とは言わなかったのだ。そういえば、私があいつは危険な男ですよと説明した時も、所長の反応は鈍かった。彼はKGBの怖さも、参事官が耳打ちした警告の意味も全く理解していなかったとしか思えない。カーゲーベーというのは貿易公団の名前だろうくらいにしか受け止めなかったのではないか。

私がKGBに逮捕されたことは、どこが情報源だったのか、ほぼ即日、日本の新聞に載ったから、いわば公知の事実である。しかし、罪状はいまも不明だ。ただ、彼らにとって私は外交用語でいうpersona non grata(=好ましからぬ人物)だったようだ。日本に戻って、本社のトップの人たちに帰国報告したとき、偉い人たちの反応は、ほう、ふーん、といっただけだったので、大使の“御社なりの判断”という言葉思い出した。

社長が代わってから、私は商内の最前線に戻った。

終わり

編集部追記：

高木恒久さんは、この寄稿文掲載後2022年11月11日に他界されました。
ご冥福をお祈りいたします。



会員寄稿文

ミステリ小説断想 (16)

福 富 直 明

ミステリ小説のジャンルの一つに暗号をテーマにしたものがある。エドガー・アラン・ポーの「黄金虫」、コナン・ドイルの「踊る人形」がこのジャンルの古典である。二作品ともアルファベットの文字を記号に置き換えた暗号で、両手を挙げた人間がA、右手だけ挙げたのがB、と言った具合に人間のいろいろな格好の絵が並んで文章になっている。同じ形のものを数えだして、英語の中で使われる頻度の高い文字、e,t,a,o,i……をあてはめて推理して解読する、頻度分析による換字式暗号と呼ばれるものだ。このタイプの暗号だと頻度分析ができるほどの長文でないと解読できないし、英語以外だったら、それなりの頻度分析が必要だ。

ニチメンには、その昔、MENKWA CODEと呼ばれる暗号簿があった。この暗号簿の使い方の訓練を受けたのは、昭和27年入社くらいの人が最後だったのではないかと思う。29年入社の私は、カラチに駐在するまで、そんなものは見たこともなかったし、暗号簿の存在を教えてくれたのが26～27年ころの入社の先輩だった。ということは、MENKWA CODEのことを覚えておられる先輩は、もう誰もいないかも知れない。

うろ覚えだが、A 4 くらいの大きさで、厚さ数センチ、ペッカリーのような革の装幀で、表紙に金文字でMENKWA CODE、裏表紙に同じく金色の分銅マークがエンボスされた、重々しい古典的な風格の本だった。大正の初期に英国の専門業者が作成したものである。先輩が教えてくれたところによると、コードはすべて子音3字と母音2字の5文字で構成されており、母音が2字より多かったり少なかったら、mutila-

tion と見做すことになっていたという。例えば、BCOPA OPHAN RENIQ…といった妙な5文字が並んだ電文になる。

暗号簿は解読用と作文用の2部が1冊になっていた。入電すると辞書を引くように1語1語解読して行く。よくできているなと感心したのは作文用の部分だった。5文字の一語が英単語一語のものもあるが、大部分は5文字が文章を代用していて、例えば「値段」の項を索引すると（本当は英文だが）「貴方の・値段・高・過ぎる・大幅・値引・検討・乞う」といった文章が見つかる。この文章を平文で打電したら8語だが暗号簿を使えば5文字の一語で済む。「客先」の項には、客先が明日まで不在、客先は当方オファーを前向きに検討中、客先は否定的、他社のオファー待ちなど、客先のあらゆる反応や状態が列記されている。だから、取引上の機密の保持と同時に、電報料金の節約という面でも有効だったはずだ。

この暗号簿が海外の取引先にも配布されていたと聞いて意外に思った。外部に配布したら機密保持にならないが、信頼できる安定した取引先に配布し、双方とも経費節減を図ったということらしい。

1950～60年代に、MENKWA CODEの中の5文字語が実際に暗号として使われることがあった。大っぴらには書けぬ、法規にすれすれの事情の絡んだ商談、日本あるいは相手国の為替管理法に抵触する恐れのある取引の場合にコードが隠語の代わりに使われた。外貨不足の国との取引では、公言出来ない為替差金が発生することがあり、この差金にOPHANという言葉が使われた。MENKWA CODEの中で最後まで生き残ったのがこの言葉だったのではないかと

思う。

MENKWA CODEが使われなくなったのは、英語の社名にあるGeneral Tradingという2文字の分野が拡大して、取扱商品が多様化したからであろう。

電文は簡潔に作れとしつけられた。手書きで規定の用紙に書き、課長と部長のはんこをもらって、電信課に持って行く。海外出張中の某君の家族から子供が生まれたと電話があったので、海外店あてに「XX君

男子誕生 おめでとう」と書いて原稿を上に戻したら、課長が「おめでとう」の1語を削除し、部長がまた「おめでとう」と書き入れて戻ってきたことがある。こんな1語にこだわった時代もあったのだ。

それから1950年代末頃か、テレックスが導入される。当時、カラチにいて、内地からの第一報が入って、かしやかしやとテレックスが動き出したとき、おお、内地と直接につながったぞ、新時代が来た、ちょっと感動した。その後転任して、駐在員が1～2名の店に行くと、電信担当の専任がいる大型店と違って、駐在員が自分でテープをパンチせねばならないという苦労があるのに気が付いた。

そしてeメールの時代が来たわけだが、現在、担当者が作った発電原稿を上司はどうチェックするのか、海外にはどう発信するのか、まさか担当がいきなり海外に送ることはあるまい、電信課なるものはまだ存在するのか、などすっかり分からなくなった。

1970年代か80年代だったか、新しい暗号システムが作られたことがある。英和小辞典とプラスチックの定規を組み合わせたもので、一見普通の定規に見えるが、数字に刻みのほかにアルファベットが入って、定規の端の穴を辞書のページに合わせる。

183F05なら辞書の183ページに合わせ、Fという文字に当たる位置の5行目の単語を拾い出す仕組みだった。辞書は研究社版の市販されているのと同じだが、裏表紙に分

銅マークが刻印されていて、会社の支給品、実は暗号用だという目印になっていた。辞書なのだから、あらゆる言葉が入っていて、どんな作文でも可能なのが長所だが、一語一語拾うのに時間がかかるし、定規が手元になれば解読できないのが弱みに見えた。

この辞書と定規は各課に配布されたはずだが、実際にどれだけ活用されたのか、疑問だ。私はこの暗号システムを使った電文を受け取ったことは一度もないが、一度だけ使ってみたことがある。ある国の駐在員が、客先に頼まれたので、次回の商品積み出しのときにゴルフ道具を1セット、同じ梱包に入れてくれと要求してきた。そんなことをして、向こうに到着したときに通関でばれたら、問題になるのではないかと思ったが、さりとて「密輸と見做される危険はないのか」と平文で問い合わせるのもまずい。そこで定規暗号を使って問い合わせたら、「貴電意味不明・再電乞う」という返事が来た。どう答えたか記憶にない。

完



会員寄稿文

大 連 と 日 本

中 田 龍 彦

筆者は2005年－2008年の3年間、双日(株)から日本貿易振興機構(JETRO)に出向、同機構大連事務所で海外投資アドバイザーとして勤務した。大連は毎年5月中下旬にアカシアの花が香り、また海辺なので季節の変わり目には放射冷却で霧が良く発生して幻想的な街である。思い出が深く懐かしい街である大連の見どころについて以下ご紹介したい。

広場と都市計画

大連は中国東北遼東半島の最南端にあり、緯度から見ると日本の仙台、アメリカのサンフランシスコ、ワシントンDC、ギリシャのアテネと同じ緯度にある。東は黄海、西は渤海、南は山東半島と海を隔てて向かい合い、北は広大な東北平野に隣り合っている。大連は東北、華北、華東地域が世界各地と繋がる海上の門口であり、最も重要な港、貿易、工業、観光都市である。

1880年代に清朝が大連湾北岸に砲台を築き、都市が形成され始めた。1894年日清戦争後、遼東半島は日本に割譲されたが、ロシア・ドイツ・フランスの三国干渉によって半年後に清国に返還される。1898年、ロシアは極東における不凍港を求めて、三国干渉の代償として、清から旅順と大連湾を含む関東州を租借した。その任務を帯びたのがロシアの国策会社である東清鉄道会社で、満州里からハルピンを経て大連・旅順と続く大規模な鉄道網の敷設に着手した。この港町に東清鉄道の終着駅を設け「ダーリニー」(Дальний; 「遠い」)と名づけた。大連の都市建設と並行してロシア海軍と陸軍は旅順に強大な軍港と要塞の建設

を進めた。ロシア極東艦隊と要塞の物資をまとめるため、また貿易の拠点として、港の整備とパリをモデルにした都市づくりが始まった。1904年に勃発した日露戦争(旅順口・旅順要塞(=203高地・東鶏冠山)攻撃、日本海海戦)を経て、同年5月末には日本軍が無血入城を果たし、戦後の1905年ポーツマス条約により日本はロシアが租借していた遼東半島を引き継ぎ、植民地経営に乗り出した。日本は南満州鉄道株式会社(略称:満鉄)を設立して東清鉄道を引き継いだ。日本は古地図に見られる中国語の地名「大連湾」からとった「大連」を都市名として採用した。ロシア統治時のダーリニーが大連となったと言われている。1905年統治開始から1945年の終戦までの40年間、日本はロシアが残した素晴らしい都市計画の青写真を引き継ぎ、東洋のパリの建設に邁進した。1944年7月には大連には20万人の日本人が住んでおり、大連市全人口80万人の1/4を日本人が占めた。



出所：釜山でお昼を (<http://nekonote.jp/>)

中山広場

大連には大きなロータリー（広場）が数多くある。中でも有名なのは中山広場である。中山広場を囲んで旧大連ヤマトホテル（大連賓館）、旧大連市役所（中国工商銀行）、旧横浜正金銀行（中国銀行）、旧大連民政署（遼寧省對外貿易經濟合作庁）など日本統治下で建てられた建築物が8棟残されている。これらは「大連中山広場近代建築群」として全国重点文物保护单位（国家級の文化遺産）に登録されている。この外にも市内にはたくさんのロータリー式交差点があるが、

これはもともとロシアがパリなどを模してロータリーと放射状の街路を持つ都市として設計し、戦後も大連市政府がロータリーを多く作ったからである。（以下の中山広場の写真は筆者が撮影）

当時の建物で中山広場3号にあった英国駐大連領事館は取り壊され現存していない。また中山広場8号は1950年に大連人民文化クラブが建築されているが、建築年時が比較的に新しいため大連市重点保護建築からは除外されている。



中山広場 1号 中国工商銀行中山広場支行
(旧: 旧朝鮮銀行大連支店)



中山広場 2号 遼寧省對外貿易經濟合作庁
(旧: 大連警察署)



中山広場 4号 大連賓館
(旧: 大連ヤマトホテル)



中山広場 5号 中国工商銀行大連市分行
(旧: 大連市政府)



中山広場 6号 交通銀行大連市分行
(旧: 東洋拓殖大連支店)



中山広場 7号 中信銀行中山支行
(旧: 中国銀行大連支店)



中山広場 9号 中国銀行遼寧省分行
(旧: 横浜正金銀行大連支店)



中山広場 10号 大連市郵政局
(旧: 関東通信局)



大連市重点保護建築の標識
中国銀行遼寧省分行
(旧: 横浜正金銀行大連支店)



1941年当時の中山広場 出所：南満洲鉄道株式会社編集・発行「大連」より

所在地	建築時期	元の名称	現在の名称	設計者
中山広場1号	1920年12月	朝鮮銀行大連支店	中国工商银行中山広場支行	中村與資平建築事務所
中山広場2号	1908年3月25日	大連民政署(大連警察署)	遼寧省対外貿易経済合作庁	前田松韻(関東都督府民政部土木課)
中山広場3号	1914年 2000年	英国駐大連領事館 大連金融大廈	現存せず 同左	H.Ashead 未発表
中山広場4号	1914年4月	大連ヤマトホテル	大連賓館	太田毅(推定)(満鉄工務課)
中山広場5号	1919年8月	大連市役所	中国工商银行大連市分行	松室重光(関東都督府民政部土木課)
中山広場6号	1936年	東洋拓殖株式会社大連支店	交通銀行大連市分行	宗像圭一建築事務所
中山広場7号	1910年6月	中国銀行大連支店	中信銀行中山支行	中国人
中山広場8号	1950年	大連人民文化クラブ	同左	ペラルーシ人を長とするソ連チーム
中山広場9号	1909年12月12日	横浜正金銀行大連支店	中国銀行遼寧省分行	妻木頼黄、太田毅
中山広場10号	1918年	関東通信局	大連市郵政局	松室重光(関東都督府民政部土木課)

出所：ウィキペディア

旅順

旅順(旅順口区)はNHKでドラマ化された司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の舞台の一つともなった。大連市内から車で約1時間で旅順に到着する。1996年に旅順の北部が開放され、日露戦争の激戦地二〇三高地、旅順港攻防戦の停戦条約が結ばれた水師営会見所跡などが外国人に開放された。一方、軍港の周辺に市街地が広がる南部では、外国人が立ち入るためには同市公安局の特別許可証が必要で、違反者は拘束されることもあった。大連市人民政府は旅順南半分の対外開放を希望していたが、中国海軍の既得権益とも絡み、議論が続けられて

いた。日本国瀋陽総領事館在大連出張駐在官事務所によると、“2009年11月旅順口区の正式対外開放が国務院、中央軍事委員会により批准されたことが報道され、中国政府が軍事区域として外国人の自由な立ち入りを禁じていた大連市旅順口区(旅順)が軍事施設周辺を除いて対外開放されたが、外国人入域規制も大幅に緩和されたことが判明した。詳細情報は公表されていないことから、立ち入りの際には、軍の管理する施設に立ち入らないこと、個人観光は避け旅行社のツアーに参加すること等注意を要する”としている。



出所: 看看大連 旅順の観光スポット(●印)

外国人立ち入りが制限されていた旅順南部の中で、是非訪問したいのが旅順博物館、関東軍司令部跡である。

旅順博物館

旅順博物館は日本植民地時代に建設された。旅順博物館は帝政ロシア時代に「将校クラブ」として使われていたものである。日本軍が旅順を占領した後、1915年に満蒙

物産陳列館としてスタート、1918年に名称を“関東都督府博物館”に改称、同年博物館主館が完成、その後、分館を増設、1934年に“旅順博物館”と改称。1945年のソ連対日参戦によりソ連軍が満州（現“中国東北部”）に侵攻、遼東半島を占領。1951年ソ連政府が管理していた旅順博物館が中国に返還され現在に至っている。現在、同博物館は中国の国家重点文物保护单位に指定されている。旅順博物館の敷地面積は25,000㎡で、主館は歴史文物を青銅工芸や漆器、仏像、銅鏡など13項目に分けて展示している。一方、分館は大連古代文明と日本画、日本・朝鮮陶瓷、古代インド石刻、外国近代切手などの外国文物を展示している。大谷探検隊(注)がトルファンの楼蘭で発掘した1300年前のミイラを始めとして中央アジアで発掘された文物が多数陳列されている。旅順博物館を有名にしているのは、大谷探検隊が持ち帰った貴重な文物があるためである。



旅順博物館(主館)



旅順博物館(主館)正面玄関



旅順博物館入口、旅順博物館(主館)を望む



旅順博物館(分館)

関東軍司令部跡

関東軍は大日本帝国の中華民国からの租借地であった関東州（遼東半島）の守備、および南満州鉄道附属地警備を目的とした関東都督府の守備隊が前身。旅順の関東軍司令部跡は、旅順博物館本館の向かい側にある。日露戦争で、日本軍が遼陽にて関東総督府設置、1906年に旅順へ移り、関東都督府へ改称、下に陸軍部を設けた。1919年都督府はなくなり、陸軍部は関東軍司令部となった。関東軍司令部は当初旅順に置かれたが、満州事変後の1932年満州国の首都である新京（現・吉林省長春）に移転。「関東軍」の名称は警備地の関東州に由来する（関東とは、万里の長城の東端とされた山海関の東を意味する）。



旅順の関東軍旧蹟博物館(旧関東軍司令部)



同博物館の展示

日露戦争（203高地、東鶏冠山、水師営）

ロシアは1896年の露清密約の後、1898年に遼東半島を租借し、旅順口を太平洋艦隊（後の第一太平洋艦隊）の主力艦隊（旅順艦隊）の根拠地とし、港湾を囲む山々に本格的な永久要塞を建設した（旅順要塞）。日本は、朝鮮半島周辺海域の制海権を押さえるためにロシア旅順艦隊の完全無力化が不可欠、また旅順要塞に立て籠もったロシア陸軍勢力（2個師団）も脅威であり、これを撃破する必要があった。日露戦争の主戦場となったのが203高地と東鶏冠山ロシア軍要塞である。203高地はその名の通り標高203メートルの小山で坂道を15分も歩けば山頂に到着。山頂に立てば旅順の町と旅順港が一望出来る。戦争後に乃木希典大將が建てた銃弾の形の忠魂塔（慰霊碑）があり、周辺に残された薬莖や大砲の残骸を集めて作られ、「爾霊山（にれいさん）」と名付けた。



旅順203高地攻略により日本陸軍が設置した28cm砲

合計18門が日本から旅順へと移送され、203高地を含む攻略旅順攻囲戦に投入された



203高地山頂の忠魂塔は爾霊山（にれいさん）と刻まれている203高地に設置された観測所による28cm砲火によりロシア旅順艦隊は壊滅



1905年1月15日旅順軍港攻防戦の停戦条約が締結
会談した"水師営"(会見所＝農家)、現在の建物は
1996年に復元されたもの



水師営内部、野戦病院用の手術台で講和条約が締
結された。日本代表は第三軍司令官・乃木希典大
将、ロシア代表は旅順要塞司令官・アナトーリー・
ステッセリ中将



水師営の庭先の棗の木の下での両軍記念撮影
中列左から2番目が乃木希典大将、3番目がロシ
ア軍ステッセリ中将



東鶏冠山のロシア要塞、日本陸軍の猛攻にあい陥落



東鶏冠山のロシア要塞の案内図

大連の味：

大連で美味しいものと言えば渤海湾と大連湾で取れるアワビ・ナマコ・渡り蟹・シャコ・ウニ・貝類・魚類など新鮮な海産物を豊富に使った海鮮料理である。どこの海鮮料理店も店の入口付近に水槽を備えており、生きた海産物を展示している。客はその水槽を見てどれをどのような料理して食べるかをサービス員（店のウェイトレス）に伝えて料理してもらう。中でも、お薦めはシャコ・ナマコ・ヤドカリである。シャコは蒸したものや塩・胡椒・ニンニクで味付けし油で揚げたものが美味で山盛りになって出てくるが、殻付のままなので殻を手で外して食べる。ナマコは生のものを薄くスライスし醤油とお酢につけて食べる。乾燥したナマコを水に漬けて戻して食べるのが中華料理



椒塩爬蝦(シャコの塩胡椒炒)

の常だが、生のナマコも実に旨い。また冬場しかないが全長20cmもあるような蒸したヤドカリは海老や蟹よりも旨く、特にヤドカリお尻の部分はフォアグラと同じ味がして、ボディーや手足の肉よりも実に美味で更に旨い。上記を食べるのであれば、海鮮料理を主体とするレストランが多数あるが、大連市内の大型店なら東海明珠美食城や万宝海鮮舫、チェーン店なら川王府や天天漁港等がお奨めである。大連を訪問されるチャンスがあれば、是非お試し頂きたい。

以上



寄居蟹(蝦怪)(蒸したやどかり)

注 1876年(明治9年)に、浄土真宗本願寺派の第21世門主 大谷光尊(明如)の長男として誕生した大谷光瑞(おおたにこうずい／1876～1948)は、宗教家としても探検家としても知られている。1902～1914年三次にわたって大谷探検隊を中央アジアに派遣し、シルクロード・西域文化研究に関する貴重な資料を収集した。光瑞はそれらを整理して旅順博物館に寄贈し公開展示されている。また大谷光瑞は昭和9年に伊東忠太に設計させたインド・アジャンタ様式の伽藍を東京の築地に、西本願寺別院として建てた人物でもある。

会員寄稿文

山岸正雄さんへの感謝

山 邑 陽 一

長引くコロナ禍とウクライナ戦争によって停滞した国際経済と国際貿易が、疫病と戦争との共存の常態化という不確実ながら奇妙な安定のもとで、待ったなしで始動した。再び経済のグローバル化と活発な貿易・投資と人材交流による、パックス・メルカトリア（通商による平和：自造語）の到来が期待され、国内でも久方ぶりに春闘による大幅な賃上げが期待される。桜も例年より早く開花した。私も妻ロス鬱から立ち直った。自分史ブームなどの出版もいま盛んである。

こんななか、東京社友会の山岸正雄さんから、自費出版された一冊の重厚な歴史書を頂いた。B5版400ページにのぼる大冊で、「真実に近いと思われる日本古代史」と題されている。一見してこの題名はおかしいと感じる。なぜならこの本の中で古代・中世が最初の三分の一、次の20ページぐらいが近世（江戸幕府）で、160ページめの冒頭から「第21章 明治維新」が始まって以後、近代の記述が全体の半分以上を占めるからである。古代史の書物ではない。時代・事件への比重の置き方も均一でなく、教科書には使えない。だがこの本の真価は「真実に近い」ことの探求にある。「歴史とは事実によって人を導く哲学である」というカーライルの名言を思わせるような、理系人らしい真実探求の飽くなき意欲を感じる。特に明治維新の記述が詳しい。希少な明治天皇の写真もある。

この大冊を少しずつ読んだある日の午後、私はいつものように自宅近辺の散歩に出かけた。自宅は垂水と舞子の中間の、淡路島に対峙する海岸の老人ホーム内にあり、垂水・舞子は源氏物語で有名な須磨と明石の

中間にある。垂水・舞子間の海岸散歩が私の日課である。須磨には明治天皇が天津事件で傷ついたロシア皇太子を見舞った須磨離宮（今は市民の公園）、舞子中央公園には明治天皇歌碑・孫文記念館・旧鐘紡舞子倶楽部（旧武藤山治邸）などがある。少し離れた山手には、舞子ビラ・ホテルとその別館があり、後者は皇女和宮の婚約者だった有栖川宮の別邸の跡地にある。明治天皇の歌碑には下記の文が彫られている。

明治天皇は舞子の景勝をことのほか愛され、1885年以来、7回にわたって行幸されました。この最初の時の様子が歌碑に三首の御製と共に刻まれています。

有栖川宮親王殿下が御別邸を建てられるまでは、舞子有数の料理旅館だった亀屋旅館がよく御在所となっていました。1928年の国道2号の拡幅工事で移転することとなり、1936年の国道工事竣工に合わせて、この旅館の跡に明治天皇の歌碑が建立されました。またこの歌碑は1998年の国道拡幅により、舞子公園内の位置に移設されました。

正面の御歌

舞子潟 舞子の浜に旅寝して見し夜恋
しき 月の影哉

右面の御歌

あしたづの舞子の浜の松原は 千代を
養ふ 処なりけり

左面の御歌

播磨潟 舞子の浜の浜松の かげに遊
びし 春惜しぞ思ふ

むかし有栖川宮の別邸があり、今も舞子ビラに「有栖川」という料理店があるので、

当地では皇女和宮が生涯に一度でも有栖川宮と会えたのだろうかという憶測が、悲恋ロマンスとして話題になるが、現実はそのような生易しい話ではないことが、山岸さんの本を読めばよくわかる。いつの時代も多くの日本人は大変な時代を生き苦勞してき

た。私たちの年代もそうであった。よくこんな歳まで生きて来られたと思う。それだからこそ、歴史の探求は必要だし、苦しくも楽しいのだと思う。山岸さんの本はこんなことを、私たちに教えてくれる。

(2023年3月26日、86歳の誕生日に)

コーヒブレイク

早瀬三郎さんの白寿と百寿

ニチメン大阪社友会の最年長会員である早瀬三郎さんには、今までにも何度も会員寄稿に登場して頂いた。その早瀬さんが昨年(2022年)12月、満99歳のお誕生日を迎えられ、お住いのマンションでお祝いの食事会を開かれ、私もそれに招かれた。添付

写真はその際の早瀬さんのお元気なご様子である。今年2023年のお正月には、めでたく百寿を迎えられた。今年12月には満100歳のお誕生日のお祝いに参加させて頂く予定で、そのご様子をまたお伝えしたいと思う。



写真説明・・・写真前列真ん中が早瀬さん、その向かって左が筆者、後列のお二人はご子息早瀬洋三さまのご夫妻。前列右は著名な商法学者だった故河本一郎教授の夫人で、早瀬さんと同じマンションにお住いの方。河本先生は私が神戸大の学生だったとき教えを受け、早瀬さんがハンブルグに駐在しておられたころ同地に留学されたので、早瀬さんが夫人を招いてくださった。

会員寄稿文

久方ぶりの東京旅行

山 邑 陽 一

コロナ下でも近くへはよく出かけた。京都へ藤田さんの絵を見に行ったり、社友会ハイキングに参加して山科や河内長野に出かけたり、大阪中之島の中央公会堂にオーケストラを聞きに行ったり、大阪倶楽部に出かけたりした。いま自宅近辺でも外国人旅客が見られるようになり、ついに私もお誘いに乗って、3月24日、東京に出かけた。

全国的に曇時々雨の予報の中8時24分西明石発東京行きの新幹線の北窓グリーン席に乗った。天候のせいで咲き始めた沿線の桜は見え、富士山も見えなかった。早い昼食を車内で取った。

品川で降りて乗り換え、昼前に普通いなれた田町駅に着き、目的地芝公園の東京プリンスホテルに行くために三田側のタクシー乗り場を探したがなく、海側に移されていた。駅の海側はきれいに整備されて、ここで初めて開花した桜の花を見た。タクシーが海側から山側に抜けたときはもうNECのロケットビルの北側の交差点に出ていて、昔通った旧ニチメン東京本社ビルは見られなかった。芝公園と東京プリンス玄関前の桜に迎えられて、昼過ぎに無事ホテルに着くことができた。

12時半からホテルの大ホールで「東京会議2023」が開かれ、私もそれに参加した。「国際秩序が不安定化する中で、自由と民主主義、法の支配、ルールに基づく秩序の立ち位置から国際協調と他国間協力を促進するため、2017年に言論NPOが立ち上げたハイレベルな国際会議です。世界を代表する10ヵ国シンクタンクの代表者が東京に集結。東京から議論を発信し、会議内での主張や意見をG7議長国に提案する日本初の国際会議です。」という主催NPOの案内と招待

に応じて参加したが、この紹介文どおり、各国から集まった多くの論者（G7・G20各国の元および現大統領・首相・大臣やシンクタンクの代表者）がいくつかの論題（ウクライナ戦争の終結と世界平和の回復・各国および国際社会での法の支配と民主主義の確立）につき議論し、参加者が質問状を書いて議論に参加し、最後に提案書を採択してG7議長国日本の岸田総理に提出する形式で行われた。会議冒頭に川口順子元外相が述べた「習主席のロシア訪問・プーチン大統領との会談と時を同じくして行われた岸田首相のウクライナ訪問・ゼレンスキー大統領との会談により、世界平和に貢献するG7議長国日本の岸田総理を激励したい」といった趣旨の会議であった。会議では熱心な議論が行われ、そこから私は多くの実践的な知識と勇気を得、主催者に感謝した。

神戸まで帰らなければならないその日の日程に合わせて、18時に私は会場を後にし、ホテル玄関前と芝公園の桜に名残りを惜しみながら、タクシーで田町駅に向かった。田町駅山側（三田側）のタクシー降り場まで最短距離を走ってくれたので、帰路はタクシーの窓から正面に旧ニチメン東京本社ビルを見ることができた。ビルは外面が改装されて美しくなったように見えた。ビルが建てられた当時の目的である日産自動車の本社ビルに戻すためか、ビルの共同所有者であった日本生命が何らかの目的で改装したのか、ただ古くなって改装したのか、そのいずれであるか判らなかった。そんなことはどうでもよかった。ただあのビルが厳然と残っている事実に感動した。

帰路は品川から新大阪まで新幹線のグ

リーン席に座って、田町のニチメン東京本社ビルに通っていたころのことを回想した。遠望する朝富士とレインボーブリッジの夜景が美しい職場だった。1999年10月に退職する前年にニチメンから「変革と挑戦」という小冊子もらった。ニチメンはよい会社だった。他社と合併するとは思わなかった。冊子には、このビルの24階の食堂から見たレインボーブリッジの夜景が載っている。いつかもう一度そこに立って朝富士と夜景を見たいという気になった。

東京会議で見聞きしたことも、もう一度想起した。会議のブラジル代表はジェットウリオ・ヴァルガス財団から来ていた。ジェットウリオ・ヴァルガスは1970年代私のブラジル駐在時にブラジル政界で活躍した人なので、彼の発言に私はとくに興味をもった。彼は民主主義の効用につき長い話をした。その前に発言したインドネシアの代表は、それを静かに聴きながらも終始不満の様子であった。彼は、インドネシアのような多民族・多文化の国家では、社会主義も民主主義も必要で、いま米ロ対立の中で、二者択一で民主主義陣営に加われと言われても不可能だという。これはよくわかる話だと私は思った。これを理解しないと、民主主義陣営はイラク戦争のような過ちを起こす。戦後独立した諸国は、旧宗主国が引いた国境線内で、多民族を含んだまま独立しているからである。

結論として、いま岸田総理を先頭に立てて日本がすべきことは、ウクライナ和平にむけての平和工作・戦後復興への協力と、民主主義国家群のリーダーの一員となるにふさわしい国内法制度の整備とである。後者の要点は、労働賃金の上昇、性別不平等の撤廃、地球環境保護、移民の受け入れ拡大、過去の戦争加担への反省などであると思う。

通商国家カルタゴは、ローマに戦争を仕掛けたために町を焼かれ、二度と再生できないように塩を撒かれた。日本は米国に戦

争を仕掛けたために多くの町が焼かれ、原爆を二度も投下された。ウクライナは黒海に面した通商国家であるが、今回の戦争はウクライナが仕掛けたのではなく、ロシアが仕掛けた前世紀型の帝国主義戦争である。ロシアを非難しながらも、まず平和を回復しなければならない。言論NPOの工藤代表は、自衛隊の入った国連PKOの創設を提唱していた。

資源のない日本には貿易立国の途しかなく、平和な通商国家として生きるしかない。国力回復と平和維持のための最も優れた道具の一つとして活躍したのが総合商社であった。私が日綿に入社した翌年1960年ころに、取扱高で繊維商社は非繊維比率を、金属商社は非金属比率を各50%以上にするというやり方で、元繊維商社・非繊維商社の合計10社が総合商社として発足した。のうち安宅産業が倒産して脱落したが、総合商社9社は双日が誕生した2004年ごろまで(私の退社は1999年)、各社が世界にその名をとどろかせ、商社マンは世界を股にかけて走り回り、競って貿易立国と世界平和に貢献した。国内卸売業だけでなく、輸出・輸入・三国間貿易・国内投資・国際投資・三国間投資・国内外での土地開発と建設・プラント輸出・航空機ほか機械のリースなどもやり、商品の総合商社でもあり、機能の総合商社でもあった。総合商社という業種の創造はシュンペーターのいうイノベーションの典型だという人もいるが、私もそう思う。今後もその活躍に期待したい。

こんなことをいろいろ考えているうちに、新幹線の新大阪駅に着き、接続している姫路行き快速電車に乗り換えて、早々に垂水の自宅に帰りついた。

(2023. 3. 30)

会員寄稿文

捨てられる日本

中 川 十 郎

21世紀はアジア・中国の時代だとの信念でNYからシンガポールに移り住んだ世界3大投資家の一人、ジム・ロジャース氏が近刊『捨てられる日本』～恐怖のシナリオが始まった！をSB新書から発刊した。「未曾有のインフレ、史上最大の下げ相場、捨てられる日本円。

日本円は捨てられる。膨大な負債を抱え、日本は沈没する。金利上昇と通貨切り下げで、日本経済は大打撃を受ける。インフレで競争力が低迷する。低迷する食料自給率が新たな危機を生む。人口減少、少子高齢化で国力が地に落ちる」と日本に警鐘を鳴らしている。

『海外投資家たちはこの国を見捨て「円売り」の動きが加速しつつある。「一流国」から「二流国」に転落したかのように思われる日本に待ち受ける「新たな危機」。最終的に損をするのは国民だが、私の見る限り、大半の日本人にはそれほど危機感がない。今起きている現実をしっかりと見ることができていないのかもしれない。』（58ページ）と日本人に警告を発している。

昨年11月鹿児島に帰省時、鹿児島空港から隣の席に同席した元証券会社に勤務していたというインテリ女性に、日本はこのままでは衰退すると話したところ、日本で生活している自分にはそのような危機感はない。通常に生活できており、これで結構だとの感想を聞き、日本国内で生活している主婦などには日本衰退の危機感はないのだと認識を新たにした。

ロジャース氏は『日本は未曾有の危機に直面している。かつて経済成長を遂げた日本の栄光は見る影もない。国が抱える、月

まで届きそうなほど積みあがった負債。先進国の中で最も深刻な少子高齢化。新たな産業が育たず、イノベーションが生まれる土壌がない。平成以来続いている「失われた30年」は終わる気配がない』と警告を発している。『「一流国」から「二流国」へ転落したかのように思われるこの国に逆境の嵐が吹き荒れた。円安だ。アベノミクスの「第一の矢」である金融緩和が尾を引き、日本銀行は紙幣を際限なく刷り続けた。これが近年の円安を誘導した。』とアベノミクスに強烈な批判を加えている。

エコノメトリクス的な見地から近著『2040年の日本』（幻冬舎新書）を出版された野口悠紀雄氏は「日本はよほどの努力をしないと年率1%の実質成長率の実現は難しい」と予測しておられる。（9ページ）。野口氏はさらに日本の教育の重要性について触れておられるが、ジムロジャース氏も同様「教育」に注力し、外国人留学生を増やせと強調しておられる。

同氏は今後の日本は「教育」に加え、「観光」、「農業」に注力すべきことを力説しておられるが卓見だ。今後米国を抜いて発展する中国、さらにインドとの協力を強調しておられる。

昨今の岸田政権の近視眼的な経済政策、さらには時代に逆行する原発政策、防衛費倍増などを見直し、日本衰退を止めるための総合的、かつ長期的な抜本的経済対策を樹立することに全力を注ぐことこそ日本にとって喫緊の課題ではないか。猛省を促したい。

会員寄稿文

躍進する第3の大国インド

中 川 十 郎

3月28日、日本国際フォーラムでShaurya Doval インド財団理事のインドの現状と将来に対する講演がありZOOMで参加した。同氏のインドの将来に対する自信満々の話しぶりに感銘を受けた。同氏によるとインドは2050年には人口が20億人に達し、世界人口の5分の1、20%をインドが占める。インドは貧困撲滅に成功しつつあり、世界最大の民主主義国家として世界に君臨する。独立以来100年を迎える次の25年を控え、インドは独立、自由を更に発展させる。インドは今後、年間5～7%の経済成長を続け、2050年までには30兆ドルのGDP大国。ソフトパワー大国となる。日本もインドとの関係を更に強化すべきだと力説した。

インドのモディ首相は“Make in India”戦略を打ち出している。ソフトやITCなどサービス分野でのインドの躍進は素晴らしいものがある。だが製造業では中国と比しても大きく出遅れている。日本の製造力、特に中小企業の製造技術をインドに移転し、インドの製造業拡大に日本が大いに協力できる余地があるのではないだろうか。

さらに22世紀に発展が予想されるアフリカとインドの関係はアフリカで活躍している1000万人ともいわれる印僑との提携を目指し、日本企業がインド経由アフリカに進出する可能性もある。日本の失われた30年の挽回にインドとの協力の方策をこの機会に日本として真剣に考究することが望まれる。

安倍政権は「自由で開かれたインド太平洋構想 (Free and Open Indo Pacific = FOIP)」を打ち出し、世界の第3の経済大国となる

インドとの関係強化を打ち出した。その後、インドを巻き込み、QUAD (米、豪、日、印) 結成や、バイデン政権が2022年5月に打ち出した「インド太平洋経済枠組み (Indo-Pacific Economic Framework)」- 14カ国も21世紀にインド太平洋地域で発展するインドを、中国との対抗上取り込もうとの米国の戦略である。

インドは2022年、中国を抜いて14億2000万人の世界最大の人口大国。さらに旧宗主国の英国を抜き、世界第5位のGDP大国になった。2025年にはドイツを、2027年には日本を抜き、世界第3位の経済大国になるとみられる。このように経済、軍事でも米中に次ぐ大国として存在感を増しつつある。

米国、中国に次ぐ第3の大国と目されるインドを取り込む「インド太平洋構想」は「中国の一带一路」の対抗軸とみなされている。しかし、アジアにおける未来の大国、中国とインドの間に立ち、日本としては両構想を融合し、アングロサクソンの競争志向ではなく、アジアの『和』の精神で、両構想をアジアの繁栄、ひいては世界の繁栄に導くべきではないか。21世紀のアジアの時代に日本の巨視的な視点に立ったアジア戦略構築に尽力すべきだ。

会員寄稿文

グローバルサウスとアフリカ

中 川 十 郎

バイデン政権が主導する「民主主義サミット」が3月29日始まった。約120カ国・地域の指導者を招き、オンラインで2日間にわたり開かれる。ロシアのウクライナ侵攻が続く中、民主主義陣営の結束を促し、「専制主義」の中国やロシアに対抗することを狙いにしているという。2021年12月に開催以来、2回目だ。米中対立の激化を背景に、バイデン政権は世界各地に於ける中国の影響力拡大を懸念しているとの見方もある。(3月30日朝日)

台湾は前回のサミットに続き招待され、デジタル発展部長のオードリー・タン部長(大臣)がビデオで参加。イスラエルやインドなども招待された。しかしトルコやハンガリーは招待されていない。今回、米国は「民主主義再生イニシアチブ」として6億9000万ドル(約900億円)の支出を発表した。今回初めてボスニア・ヘルツェゴビナ、リヒテンシュタイン、コートジボアール、ガンビア、モーリタニア、タンザニア、ホンジュラスの8カ国が新たに招待された。グローバルサウス(南半球の発展途上国)への関心がとみに高まりつつある現状下、米国と中国のグローバルサウスでの対抗意識があらわになっている。

その中でもEU脱退後、アジア回帰を目指しつつあった英国はTPPへの加入が本3月31日TPP閣僚会議で認められる見込みとのことだ。TPP11が発足後、英国、中国、台湾、中米、南米のエクアドル、コスタリカ、ウルグアイなども加入を申請していたが、トップを切って英国の加入が認められた。英国の加入でアジア、米州が主体であったTPPは欧州との経済関係がさらに

緊密になるものと思われる。英国の加入でTPPの世界GDPに占めるシェアは12%から15%に拡大。英国のアジアとの経済、貿易関係がさらに強化されるだろう。

一方、グローバルサウスとして躍進が期待されるアフリカは、21世紀前半の中国の世紀、後半のインドの世紀に続き、22世紀に躍進が期待されている。

3月30日ZOOMで開催されたアジア経済研究所、JETROアフリカ専門家のセミナーによれば、躍進しつつあるアフリカの人口は今世紀末には世界人口の約半分の50億人となり、「アフリカの世紀」が訪れる。日本としてもアフリカに注力すべきだと力説していた。

アフリカでは耕地面積も拡大しつつあり、それとともに人口も増大。南ア、ナイジェリアなどの企業がクロスボーダーの活躍をしており、海外売り上げ比率が高まりつつある。

人口減少社会を迎える日本は、米中デカプリングの現状下、人口、鉱物、エネルギー資源豊富な22世紀の大国に発展するアフリカとの経済関係強化に注力すべきだと講師各位が力説していた。少子高齢化で人口が減少する日本は今世紀末には人口5000万人と中規模国家となる。人口豊富なアフリカからの移民受け入れ、人材活用が肝心だとのアフリカ専門家の指摘は傾聴に値する卓見で、得るところ大なるものがあつた。

会員寄稿文

タスマニア島訪問記

奥 村 睦 夫

2011年3月8日、豪州メルボルン経由タスマニア島ホバート空港に降り立った。

そうです、東日本大震災の3日前でした。

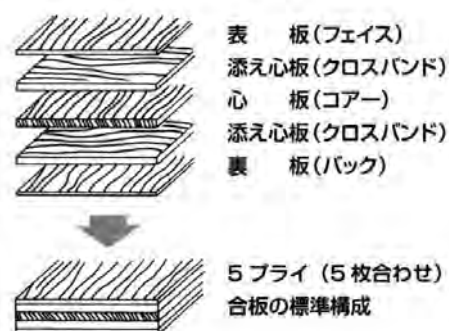
今回は、合板（プライウッド）製造業界での画期的な分業の現状とその将来性を調査することが目的で、同島で多産するユーカリ材を材料とした単板（ベニア）を生産するマレーシア資本の単板工場、並びにユーカリ樹植林地現場などを訪問しました。

時代背景：1990年代に入り、熱帯雨林保護が大きく叫ばれ、インドネシア、東マレーシアの合板メーカーは、樹種転換、植林木多用など原木確保に知恵を絞りました。中でも東マレーシア・サラワク州のT社（後述）は、早くからユーカリ材利用の研究を進め、合板製造の国際分業を始めることになりました。この会社は筆者のサラワク駐在時の主な仕入先の一つで董事長ほかスタッフとは懇意にさせてもらっておりました。サラワク州は中国福建省（特に莆田市）出身華僑が多く、質素儉約を家訓とし、知恵者が多いことで知られております。

注）莆田（Putian）市は昔から木材産業が盛んで、筆者が2008年に当地を訪問した際、宮崎県産杉原木（間伐材）積載の本船からの荷揚げ作業に立ち会ったことがあります。

まず、「合板：ごうはん」のイロハを説明します。

- ① 一般に、「ベニア板」と言われるのが「合板：プライウッド」で、この合板は単板（ベニア）を乾燥し、各枚に接着剤を塗布し夫々の繊維方向（木目方向）を一枚ごとに直交させて、奇数枚を熱圧（ホットプレス）して、反りのない大きな板状にしたもの。
 - ・ サイズは用途により、3尺×6尺、2尺×6尺、4尺×8尺 など
 - ・ 厚みは用途により ➡ 2.4mm、3.6mm、5mm、9mm、12mm、15mm など
 - ・ 代表的なのが、コンクリート型枠用合板。通称「コンパネ」で、その厚みは12mmと15mmなど、寸法は600mm×1800mm（にろくサイズ）、900mm×1800mm（さぶろくサイズ）など



15.0mm以下	3プライ(3枚合わせ)以上
15.0mm～18.0mm	4プライ(4枚合わせ)以上
18.0mm～24.0mm	5プライ(5枚合わせ)以上
24.0mm以上	7プライ(7枚合わせ)以上

〈長さ・幅〉

標準的な寸法として、 $(3 \times 6) = 910 \times 1820\text{mm}$ ・ $(3 \times 8) = 910 \times 2430\text{mm}$ ・ $(3 \times 9) = 910 \times 2730\text{mm}$ ・ $(3 \times 10) = 910 \times 3030\text{mm}$ ・ $(2 \times 6) = 610 \times 1820\text{mm}$ ・ $(4 \times 8) = 1220 \times 2430\text{mm}$ などがあります。注文に応じてmm単位で任意な寸法が作れます。

- ② 単板は大根の「カツラ剥き」のように薄く剥（む）いたもので、厚みは0.8mm以上で、用途により厚みを変える。機械はロータリー・レースと言ひ、1990年代中頃以降は直径10cm程度の小径木（間伐材）も剥けるレースが開発され、天然林保護に繋がっております。



③ 使用樹種：

あらゆる樹種が対象ですが、価格、供給量など経済的優位性で決まります。1960年代以降、南洋材（所謂、ラワン、セラヤ、メランティ…）が主体となり、フィリッピン・マレーシア・インドネシアが主供給元となり、各商社南洋材部隊の出番となり、日本全国の合板、製材メーカーに供給し、日本の住宅建設に貢献いたしました。その後、1980年代後半ごろから、熱帯雨林保護が注目され、使用樹種の転換が図られ、ラジアータ松（ニュージーランド、南米チリ等）、シベリア産針葉樹（カラ松等）に加え、ユーカリ材が登場してきました。

④ ユーカリ樹（EUCALYPTOS）：

常緑広葉樹で、オーストラリア本土、タスマニア島、パプア・ニューギニアなどに多生し、約500種ほどあり、コアラの主食（約40種類）としてご存じだと思います。

- ➡毒性あるユーカリ葉をコアラはなぜ主食とするのか？〔コアラの盲腸は2mほどあり、睡眠は毎日16時間以上〕がヒント。ご興味ある方はネットでお調べください。
- ➡訪問した単板工場で使用するユーカリ材は全量が植林木（種子は空中散布）とのこと。
- ➡植林後10年ほどで径20数cm、樹高10数mにも達する早成樹との説明も受けた。
- ➡用材だけでなく、近年製紙用として注目され、東南アジア・中国南部でも大規模植林され、木片チップ状で日本にも大量に輸入されている。



Tahune forest Airwalk 近くのユーカリ巨樹
樹齢400年 径6.2m 樹高87m 材積約370m³



資料映像(wikipedia):コアラとユーカリ



ユーカリ樹の種子:これを空から播く



TAHUNE FOREST 林内の Air Walk

さて、これからが「合板」の国境を越えての分業のお話、

○単板工場概略

- ・会社名：TAAN TASMANIA (TAT)
- ・1993年にマレーシア・サラワク州にて合板製造を始めたTAAN社が出資、オーナーであるDato Wong Kuo Heaは、筆者（90年代初めに同州駐在）とは顔なじみ。
- ・2005年、タスマニアへ進出しユーカリ材単板を製造（工場立地：Smithon city）、全量をサラワク州の自社工場へ運び、最終製品（合板）を主に日本向けに輸出。
- ・2015年以降、単板・合板の一貫製造開始し、日本・豪州ほか世界各地に輸出。



↑ ↓ 2011年3月、TAT VENEER MILL



↓ 海上輸送

○合板製造：東マレーシア（ボルネオ）
サラワク州SIBU市（州都）

↓ 海上輸送

○消費地（日本、中国など）へ輸出
日本では、用途に応じて、表面化粧、寸法カットなどを施し、住宅用内装用建材（天井板、壁板、床板など）、コンクリート型枠用合板として、HC（ホームセンター）、建材店などへ供給されます。



↑ サラワク州シブ市の本社工場
タスマニア産ユーカリ単板→この後屋内倉庫へ

TASMAN TASMAN TASMAN TASMAN TASMAN

- 島全体が自然の宝庫、興味ある方はお出かけください。
 - *あの Gondwana 大陸由来の動植物(所謂、Gondwana 要素)が残り、原生地域が世界遺産。
 - *海産物、特に牡蠣料理がお薦め、タスマニアワインとの相性が素晴らしい。
 - *酪農が盛んで、生牛乳の味が抜群!
- 「Ross Village Bakery」: ジブリ「魔女の宅急便」の「キキのパン屋」のモデルになったパン屋がある。ほぼ中央部の「ロス」の町にあるので、地図でお探してください。
- ホバート港岸壁で、Sea Shepherd.ORG. (シーシェパード) を発見 → 2011 年 3 月 8 日撮影
Stop the Slaughter (殺戮を止めよう) の文字が見える。
 - *“ここ数年、長期間係留されていることが多い”との説明があった。



おわり

第26回ニチメン食料OB会(食糧、食品両本部合同)

紅 林 哲 夫

「私、分かります?」「懐かしいなー、変わらないね」「えー、〇〇さん?」

マスクの着脱に戸惑いつつも定刻前からあちこちに談笑の輪。会場外まで聞こえる明るい声、笑顔があふれる久しぶりの対面での集まり。

2023年4月8日(土)12:00からアルカディア市谷(私学会館)宴会場でニチメン食料OB会を開催しました。新型コロナ感染拡大の影響で中止続きだっただけに待ちに待ったOB会です。漸くコロナ感染が収まってきて感染症法上の位置づけも変わる事となった春。今年こそと参加意向を打診したところ予想を上回る数となり開催を決定しました。2019年4月以来実に4年ぶり、幹事の心配をよそに1957年(昭32)入社から1993年(平5)入社組まで総勢30名が集まるOB会となりました。

定刻になり世話人幹事を代表して佐藤武宣さんによる開会あいさつに続き、直近4年間に鬼籍に入られた物故者9名に黙とうを捧げました。故人との生前の思い出を偲びつつ9名という数に改めてコロナ禍3年の長さを感じます。そして参加者最長老の石原靖造さんによる乾杯・献杯の音頭で会は盛り上がります。会場内には再び歓談の輪が広がり、尽きぬ話に皆ビュッフェ料理も忘れたかのような盛況ぶり。

嬉しい初参加者7名の自己紹介もあり、新たな思い出話に談笑の輪は次々に広がっていきます。会半ばには参加者全員からの近況報告。入社当時の忘れ難い思い出からニチメンを離れた後の苦労話、異業種での奮闘、そしてコロナ下での生活など実に多彩な報告が続きます。

<当日の報告再現>

悠々自適生活を満喫するOB。ニチメンを離れて新天地で現役バリバリのOB。生涯ゴルフを楽しむOB。ピアノ弾き語りを始めたOB。ギターで老化防止のOB。大学で講師をするOB。年間270本を見続ける映画狂。子育て終わり遠く兵庫から参加のOG。エンタメ業界で起業した忍者。リタイアはまだ早いとまた働き始めたOB。仲睦まじくダンスが趣味のご夫婦。テニスコートで倒れ意識を失ったOB。36年インドネシアに住んだOB。社員番号を今でも忘れないOG。次々に続く報告にそれぞれが自分の思い出を重ねながら相槌を打ったり、爆笑したり、感嘆したり、久しぶりの対面での話に皆熱心に聞き入っています。シニアサッカー全国優勝2連覇に向け猛練習中、との欠席者からの報告には会場のあちこちで称賛の声が上がります。

「あの時ねー、覚えてる覚えてる」「そんなことあったねー」「〇〇さんはどうしてるんだろう?」「あの時は参ったね」「あれは最高!楽しかった!」「今でも変わらず?凄いい!」会話は弾みます。会場の雰囲気はあっという間にあの宝町の5階フロアにタイムスリップしたかのようです。仲間と共に過ごした日々を振り返り、懐かしさと心地良さを感じるOB会が復活しました。

櫻井征夫さんが皆の健勝と次回の再会を期して閉会挨拶をされ、最後に記念の集合写真撮影。2時間半があっという間に過ぎました。

散会後降り始めた雨の中、名残惜しい仲間といくつかのグループに分かれ2次会、3次会。皆にとってもニチメン時代が思い出の詰まった若き日の原点だった、と改めて感じさせるOB会でした。若手の参加でOB会世代の広がりが期待できそうです。次回が楽しみです。

出席者リスト：順不同・敬称略・(旧姓) ◎印：代表世話人 *印：世話人事務局

土橋勇、柳沢重英、佐藤武宣◎、佐藤介伊三、湯本章人*、岡部健太郎、服部忠雄、庭野松三、櫻井征夫、櫻井(外山)妙子、吉川敏朗、小野宗一*、中田龍彦、紅林哲夫*、桑島有一、小山良、千冶松謙二、橋本昌二*、石原靖造、久富正明、安藤(浜野)しのぶ、内田(志村)真理子、鍋田(三島)綾子、武本(笹谷)欣代子、西沢(牧)恵子、小平実、大工原親、田中宏明、山口一郎、北川幹雄。



「俳句の会」いろは句会

佐 藤 英 二

長寿の「いろは句会」句集を今回もお届けします。当句会は本年3月には無事第400回という節目を迎える事が出来ました。

本年1月には当句会会員の山田珠真子様が闘病の結果逝去されるという悲しい出来事もありましたが、新たにお二人の会員も迎えることも出来ました。

従来 of 雑談を交わしながらの対面句会に一日も早く戻れる日を祈りながら、今回も各会員の自薦句（昨年10月～本年3月）3句をお届けします。（氏名は50音順）

山田様の句はご家族の了解も得て遺作として掲載を致しました。

人情の厚きふるさと水温む
標的は物価高なり鬼の豆
喪の便り日毎に届く虎落笛

宇治田薫風

きのふより色濃き筑波春立ちぬ
幼子の絵本の会話秋日和
朝霧や村落包む鳥の声

久保田悦子

この恋も卒業するはと君は云ふ
墓地の秋父母の辿りし道思ふ
冬将軍嫌われてなほ居座りぬ

佐藤 英二

立春や改札出れば人の波
菜の花の広がる先に青き富士
晴れの日に夢をいだきて卒業す

下川 泰子

ひと日またかく暮れゆけり福寿草
笹船の紅葉を乗せて橋くぐる
暮れ残る色無き庭に石露の花

福島 有恒

三福を詣で茶房の客となり
春薄暮肩寄するともかはすとも
諸蔓を引き合ふ子らの赤き頬

藤野 徳子

明日発てる子の部屋に咲くヒヤシンス
わが居場所求め真白き日記買ふ
葱一本握りて祖父の小手一本

堀部 暁

秋灯窓ひとつずつに物語
行き過ぎて更に香を益す金木犀
落ち葉掃く姿絵になる美術館

山田珠真子

溝江博三君を偲ぶ

芳 賀 信 明

暫く、ニチメン社友会のホームページを見なかったが、開いてみてビックリ。私と同期入社の溝江博三君が88歳で2022年1月20日に亡くなっているのを知りました。

同君と私は1963年に私がマニラに赴任したときから約2年間、社員寮で同じ釜の飯を食った戦友でありました。私は鉄鋼出身、溝江君は機械関係で、お互い鉄鋼プラントの建設などでは協力し合って働いた間柄です。

当時は、マニラ支店長は阿多宏太郎さんで、同氏のゴルフ熱に引っ張られて、駐在員全員がゴルフをやっていましたが、溝江君はワクワクゴルフ場のキャディ連中からCarabao（カラバオ：水牛）なるニックネーム奉られるほど長距離ドライバーを打つとして人気者でした。

ルールにも厳格で、ティーグラウンドでさっさとドライバーを渡して先に歩いて行ってしまうキャディーに対して、Player has the right to choose a club on the tee ground. などと説教したりしておりました。

一度、内地からテレックスで「重要取引先の社長が夜中の12時にトランジットでマニラ空港に1時間ばかり滞在する。鉄鋼と機械の駐在員はともにマニラ空港に社長を出迎え、挨拶をせよ。」との指示がありました。私と溝江君は雨の夜中、空港へ出向く途中で、社有車が事故を起こし横転してとまりました。事故後、彼の第一声は「お〜い、芳賀君、大丈夫か。」でした。それ以来、二人は顔を合わすたびに、あのときの事故の様子など語り合ったものです。

私がヒューストン駐在になったときに、カントリー・ミュージック愛好家だった溝江君からカントリー・ミュージックのレコードを買って送ってくれるよう依頼があったりしました。

大事な戦友の訃報を知り、心から哀悼の念を捧げるものであります。



バギオのゴルフ場にて

溝江博三君 芳賀信明 竹内郁夫さん（木材） 梶浦謙晴さん（木材）



Super Industry corporation 開所式

左からマニラ支店ベン・ブリヤンテス 溝江博三君 工場長デムラオ
日産自動車 佐合さん マニラ支店マックス・エンリケス



手前丸テーブル、時計回りでマックス・エンリケス（マニラ支店総務部長、サングラス）
芳賀信明 阿多支店長 竹内さん 香月孝さん 香月夫人 オーリン（マニラ支店）
小田さん（機械） 田所さん（機械） 佐合さん（日産自動車） 幾島さん（食料）
溝江博三君（眼鏡）

高木恒久さん 思い出すこと

大 村 善 勇

令和5年の年が明けて間もないころ、高木さんの訃報に接しました。その第1報は、高木さんらしく海外の友人からのメールでした。前年11月27日に亡くなったとのこと。すぐに高木夫人にお悔やみの電話を入れました。寒中見舞いで皆さんに知らせるつもりだった、とのことでした。

独特の個性がまた一人旅立ちました。思い返せば、高木さんの周りには、いつも人が集まっていたにぎやかだった。そんな高木さんのロンドン駐在時代の逸話を紹介して、彼を追悼したいと思います。

1985年か86年だったと記憶しますが、高木さんが「ストリップグラム」の標的になりました。事の始まりは、会社の営業時間が過ぎた午後5時半ごろ、電話機の殺菌消毒をする会社から派遣された女性が石油部の部屋に入ったことです。わが社が契約している会社のマークの付いたグレイのユニフォームを着て部屋に入り、事務机にのっている受話器を順に取り上げて洗浄剤のしみ込んだ布で拭い、そのあと、マイク部分に埋め込んである芳香剤を取り換える作業を始めたのです。

仕事に集中していた高木さんは、いつもなら作業員2～3人で部屋に入るのに、この時は女性一人だけと言うのにも気付かずにいました。いつもの消毒作業と考え、気にも留めずに仕事を続けていると、この女性は受話器の仕事をしてながら「この部屋は、暑いですね」と高木さんに話しかけました。「そうかい？」程度の受け答えしかしなかったのですが、高木さんの目の前に来て「暑いからちょっと脱がせてもらおうわ」と言って、会社のユニフォームを脱いだのです。

わざわざ彼の目の前で脱いだのですが、ユニフォームを脱ぐなり、いきなり豊満な「おっぱい」が現れたので、高木さんが目を丸くしていると、ドアの隙間からこの様子をうかがっていた女性群が声をあげて笑いながらどっと部屋に入ってきました。このあと、この妙齢の清掃婦は高木さんの秘書たちがはやし立てるのに応えて、上半身はだかのまま、彼の頬にキスをして、"Happy birthday, Mr. Takagi!"と言うなり、上着を着なおして、部屋を出て行ったのです。

ローカルスタッフからも慕われていた高木さんらしいエピソードなので、ここで取り上げました。私は事前に秘書からこの「企み」を漏れ聞いていたので、隣の食料部の部屋からガラス越しにチラチラと、この様子を見ていました。ロンドン・ニチメンが活気に満ちていて、全員が生き生きと仕事に取り組んでいた良い時代に我々は英国勤務を経験させてもらいました。学生時代からの友人同士がたまたま同時期にロンドン勤務となったのも幸運でした。高木さん、多くの楽しい思い出を、ありがとう。

君の霊安かれと祈るばかりです。合掌

追記：

「ストリップグラム」(strippagram)がどういう場面で仕組まれたのか、私の記憶が定かではなかったので、これを企画した張本人(英国人・女性)にメールで尋ねてみました。それが誕生祝だったのか、彼が転勤でロンドンを離れる時だったのか、確かめようと思ったのです。以下は、彼女からの返事です。彼女の返事が高木さんを追悼するにふさわしいと思いましたので、彼女の同意を得て下に引用します。(彼女は、strippergramと綴っています)。

Regarding Alex（高木さんは、こう呼ばれていました）…

At the time in question strippergrams were very fashionable. I got permission from the General Manager and booked a strippergram from a local agency. I decided to ask the lady to dress as the Phonotas lady. You may remember it was common that companies employed a telephone sanitation service about once a month. The ladies wore a grey suit and grey coat. When the lady came to Alex wearing a grey suit he had no idea at all that she was not really there to clean his phone. She started to complain about how hot it was in the room. Then she started to strip off. Top half only. I think he had noticed that everyone was watching waiting to see what would happen. As far as I can recall it was not for any particular event. We all worked very long hours and worked very hard and it just was a distraction. As Alex loved to tell stories about various things I know he would have repeated this story many times over the years.

Alex was a "people person", he found great interest in people from all walks of life. I know for a fact that he was still in touch with a few oil friends in BP London so many years after leaving the UK.

It is strange not to receive his emails now but when I think back to the time last year in March when he told me about his illness he said very clearly that he had had a very good life. He appreciated his friends and family and the many experiences in his life. He was a loyal friend and I have greatly enjoyed working with him and having him as a friend.

以下、蛇足となりますが、上述の「ストリップグラム」について説明を加えますと、高木さんにキスをしたこの女性、実は、あるサービス会社から派遣された人なのです。高木さんのスタッフたちが、このサービス会社に頼み、我が社が契約している受話器の殺菌消毒会社の作業員とまったく同じ服装をさせて彼の部屋に送り込み、いつものように仕事をする風を装いながら彼の真ん前で、いきなり脱いで、彼をびっくりさせようと図ったものです。このように脱いでしまうサービスを「ストリップグラム」、キスをするだけなのを「キスグラム」と言います。

私が英国勤務を終えて帰国してから数年が経過したある日、飛田茂雄著「私が愛する英語辞典たち」（南雲堂フェニックス）なる書物をめくっていたら、驚きました。このキスグラムに関する解説があるではありませんか。この本によれば、私が上に申し上げたサービス会社は、米国にある「パーティーを盛り上げる新商売」（商標は Kissagram）なのだそうです。そして、私が上に書いたキスグラムは、kissagram と綴るのだそうで、英々辞典に載っていることを教えられました（kissogram という綴りで載っている例もあります）。飛田氏の本によれば、もともとは米国の Western Union 電報会社に「Candygram（キャンディつき電報）」という電報会社の商売があった由です。この商売は、特別料金を払えば、若い女性の電報配達員が届け先の人にキスをするというものだそうです。しかし、私が今話題にしている Kissagram は「グラム」となっているものの、電報とは無関係です。お祝いをされているご本人に「お祝いのキス」を届けるといふ商売なのです。（-gram の解説は、辞書にも載っています）

さて、この出張サービスでは、婦人警官の服装で現れたケースにぶつかったことがあります。仔細に見れば、服装のどこかが本物の警官とは異なる筈ですが、私には見分けがつきませんでした。婦人警官はこんなふうに見えました。

オフィス近くのパブで、財務部の同僚（イギリス人男性）ケヴィン・Mさんの誕生祝いをやっていた時のことです。パーティーがだいぶ盛り上がった頃、パブの人込みを掻き分けるように婦人警官が現れてケヴィンの前に立ちました。なにやら紙片を読み上げながら、「ミスター・ケヴィン・M。〇〇の違反があったので、逮捕します。」と言って、ケヴィンの度胆をぬいてから、彼の頬にキスの雨を降らせて、"Happy birthday, Kevin!" と叫びました。これはキスグラムでした。彼の両頬は口紅だらけになりましたが、誕生祝いのパーティーが一段と盛り上がりました。まわりでやんやと囃し立てたのは、彼の属する財務部の女性群でした。これも、彼女らの企みだったことが分かりました。

わが国では、最近ちょっとしたことでも、セクハラだの女性蔑視だのと、うるさくいわれるので、気の小さい私などは、女性と話をする時は、下手なことを言ってはいけないと身構えてしまうのですが、こうなると、イギリスの若い女性たちのおおらかさと彼女たちとのユーモアあふれる楽しい会話を懐かしく思い出してしまいます。

高木氏と私は、このように良い時代に英国勤務を経験しました。家族ぐるみの付き合いでしたし、多くの楽しい思い出を共有しています。

2023.03.15.記



◎ 会 員 動 向

2023年4月30日現在

新規加入者（敬称略）

井戸田治郎、田中淳嗣、影山雄司、川村安宏、大西啓之

退会者（敬称略）（2022年度）

梅原郁朗、大山陽子

資格喪失者（敬称略）（会則11条3項により、会費を2年間以上未払の場合が該当いたします。）

連絡が途絶えている方（敬称略）

石川勝美、上條達雄、近藤貞一、小林正史、渋谷義、芹生宏
（連絡先をご存知の方は、事務局・世話人へお知らせ願います。）

新入会員募集中

皆様の周りで未加入の方がいらっしゃいましたら是非勧誘いただきたく思います。
本会の会則に同意して、会費を納入頂けるなら会員になれます。
（ニチメン、ニチメンの関連会社に在職したことのある方が対象になります。）

◎2022年度(2022年7月～2023年6月)年会費(3千円)入金状況とお願い

2023年4月30日現在

会員数	入金済会員	長寿会員(註1,2)	終身会員(註3)	未納会員
396	301	69	12	14

＊ ＊ 2021年度分未納者数 ＊ ＊ 6

尚、来年度（2023年7月～2024年6月）年会費 納入済の方→ 62 （註4）

お願い：

2021年度会費を未納付の方は当年度会費と合わせ至急の納付にご協力下さい。

当会会則第11条の規定により2期分の会費未納者は会員資格喪失となります。

振込先は、下記いずれかを利用して下さい。（振込手数料は各自ご負担願います。）

1) 郵貯銀行

口座番号 ： 00100 - 4 - 318041
口座名義 ： ニチメン東京社友会

2) 三菱UFJ銀行 東京営業部 普通口座

口座番号 : 8225155

口座名義 : ニチメン東京社友会 代表 石原啓資

振込に際しましては、振込者名欄にご自身の名前を最初に左詰めに記載願います。

(ネンカイヒ、ニチメン、XXネンドカイヒ等の記載があると振込者名が通帳に記載されず、振込者が特定できません。)

(注1) **長寿会員は年会費免除**になっておりますが、長寿会員からご送金を頂いた場合は当
 当会へのご寄付とみなし処理させていただきます。(会運営上大変助かります)
 但し、何らかの手違い等であれば事務所までご連絡下さい。

(注2) 長寿者氏名：(50音順 敬称略)

青木繁行	阿賀信夫	石川勝美	石原靖造	糸井康雄	伊藤安雄	入野英次
岩居宏一	宇治田薫	海野敏夫	大久保海生	大崎隆三	大谷毅丈夫	大塚静子
大場禎治	大村善勇	大森啓作	河西良治	勝田泰司	上條達雄	川畑正巳
倉又則夫	栗田久彌	小林斉之助	近藤貞一	斎富造	坂井良司	桜井潤一
三分一克美	柴田実	渋谷義	島田俊彦	菅谷省三	高瀬裕	高田秀子
田尻眞啓	伊達邦雄	津田賢一郎	永井清光	中川十郎	西奥薫尚	西田昇
西村弘	野城恒男	芳賀信明	橋爪覚	林義人	平岡昭三	廣瀬一彦
廣田雄太郎	深尾孝	福富直明	牧洋生	松田邦夫	松田實	松村信男
松本寿夫	三浦甲蔵	水庫博夫	宮内義彦	三宅葉	宮田信雄	村井靖武
村上匡一	八津道夫	山岸正雄	山田寛治	吉田孝生	吉本邦晴	以上69名

今年長寿者になられた方：

<<今年度(23年度)からの会費が免除になります。>>

泉伸夫	岡島岩男	沖田隆彦	小野賢次	北川嘉雄	喜多島雄徳	倉持次雄
黒木俊二郎	菅沼利太郎	芹生宏	高瀬允宏	中原正紀	西川洋	庭野松三
長谷川洋	堀田恒雄	本田務	本松巖	山本昌裕	矢島孝	吉野昭一
以上21名						

(注3) 終身会員(50音順 敬称略)：

入江隆史	岩田功	大羽陽一郎	奥村睦夫	唐崎和彦	木寺厚二	新藤孝
千田俊章	土橋昭夫	中田龍彦	榊山俊次	宮本正博	以上12名	

(注4) 2023年度(2023.7～2024.6)年会費納入済会員(50音順敬称略)：

<<今年度は、振込不要になります。再来年に、24年度分の振込をお願いいたします。>>

青木聡弥	青木浩	青木政和	赤城枝美	赤沢宏哉	我妻寿一	浅子豊治
芦村八郎	東信子	甘利廣	石黒由紀子	石原啓資	井戸田治郎	今井明
大西啓之	大山陽子	岡田茂	沖田隆彦	影山雄司	数森正彦	川村安宏
加藤資一	北井暁夫	黒住厚	小谷野和夫	坂井辰雄	笹原弘	佐渡隆
渋谷和雄	下浦通洋	杉浦俊之	陶山晃	高橋卓子	高橋正	田上佳作
田中淳嗣	田中弘	谷昌興	土屋秀雄	西川洋	西野幸夫	庭野松三
野本定男	蓮沼恒郎	服部輝夫	浜地道雄	細井吉一	堀典代	堀部暁
松沢幸雄	松村森男	松本幸子	丸野純	水野英幸	水堀勤	箕作武彦
宮尾迪子	矢島孝	安井修司	山口一光	横井正豊	吉川浩	以上62名

(注5) 2022年11月以降で 寄付をいただいた方々

松沢幸雄(ご親族より)、廣内卓生

ニチメン東京社友会会員名簿(2023年4月30日現在)

広報チーム

ア行:

青木聡弥	青木繁行	青木浩	青木政和	赤城枝美	赤澤宏哉	阿賀信夫
秋田 久	我妻寿一	阿久津佳子	浅井正彦	浅子豊治	浅利真司	芦村八郎
東 信子	穴田清和	天野雅光	甘利 廣	新井康友	荒木武雄	池田照幸
池永 浩	石井光雄	石川勝美	石川 満	石黒由紀子	石原由紀子	石原 清
石原啓資	石原靖造	泉 伸夫	五十畑利江	井田龍夫	井田正従	井村正規
市川伸江	糸井康雄	伊藤尚志	伊藤安雄	糸川良平	井戸田治郎	井上正博
今井 明	今村隆夫	入江隆史	入野英次	岩居宏一	岩井 修	岩上敦司
岩田 功	上田吉彦	植村邦彦	上村哲嗣	宇治田薫	内田鏐一	内田宗興
内山田純一郎	内海和男	海野敏夫	浦野由紀夫	漆崎隆司	大北克利	大久保海生
大崎隆三	大曾根弘之	太田弘之	大建雄志郎	大谷和夫	大谷毅丈夫	大塚静子
大塚健夫	大西啓之	大野悦良	大場禎治	大林はる美	大羽陽一郎	大平栗雄
大村善勇	大森啓作	岡 敦彦	岡島岩男	岡田 茂	岡部健太郎	小蒲智臣
小川 桂	小川哲郎	沖田隆彦	奥村睦夫	小田有久	越智栄史	尾上鏐一
小野宗一	小野稔	尾羽澤正敏				

カ行:

垣田佐代子	影山雄司	河西良治	数森正彦	勝井嗣雄	勝田泰司	加藤資一
金田正博	鎬木順治郎	蒲澤信男	上條達雄	唐崎和彦	川崎秀憲	川西 勲
川畑正巳	川村安宏	川本寿彦	上林正嗣	木皿重正	木津奈緒子	北井暁夫
北川幸雄	北川嘉雄	喜多嶋雄徳	北野秀明	木寺厚二	木下龍三	木村敬男
久世清司	轡 健一	国峯信成	久芳 成	窪田厚三	倉又則夫	倉持次雄
栗田久彌	栗原靖幸	黒木俊二郎	黒住 厚	黒田克弘	桑島有一	後藤厚治
五島慎二	後藤政郎	小西重勝	小西正純	此田哲也	小林斉之助	小松繁憲
古谷野和夫	近藤厚子	近藤貞一				

サ行:

斎 富造	斎藤勝吉	斎藤勝義	斉藤至弘	五月女穰	坂井辰雄	坂井良司
佐久間正光	桜井潤一	桜井征夫	笹原 弘	佐藤三朗	佐藤武宣	佐藤光治
佐藤由紀恵	佐渡 隆	佐野 進	沢井二三一	三分一克美	篠塚美郷	柴田 実
渋谷 義	渋谷和雄	島 靖久	島田俊彦	清水武人	下浦通洋	霜鳥雅徳
白坂泰之	新藤 孝	陣内義夫	菅沼利太郎	菅野幹二	菅谷省三	杉浦俊之
鈴木譲治	鈴木広明	須藤忠昭	陶山 晃	関根潤治	瀬在道晴	芹生 宏
外林俊浩						

タ行:

大工原正徳	高木正博	高瀬 裕	高瀬允宏	高田秀子	高田裕二	高橋卓子
高橋 正	高橋正尚	高濱 悟	田上桂作	高見恒博	田鎖正浩	竹内可能
武田尚憲	竹村 豊	田尻眞啓	田代充穂	橘 行雄	伊達邦雄	田所忠彦
田中淳嗣	田中 謙	田中孝平	田中伸介	田中聡太郎	田中 勤	田中 弘

谷 昌興	玉井一幸	田村達也	田村順子	丹下 薫	丹野和廣	千田俊章
津田賢一郎	土田成穂	土屋秀雄	角掛康弘	鶴丸慎一	寺川行弘	外村和之介
土橋昭夫	土橋 勇	富岡矩子	富田 仁	富田 保	豊木啓喜	豊福清二

豊間根政行

ナ行：

永井清光	長井 誠	中尾舜一	中尾弘久	中川十郎	中島和彦	中田龍彦
永田堅志郎	中谷宣英	中西真佐裕	中野次夫	中原正紀	中村静人	中村 剛
名島憲一郎	滑川和子	成宮正和	南部捷郎	西奥薫尚	西川 周	西川真司
西川 洋	西田武弘	西田 昇	西野幸夫	西村昭男	西村照男	西村 弘
庭野松三	野城恒男	野本定男				

ハ行：

芳賀信明	橋口喜郎	橋爪 覚	橋本昌二	橋本文宏	橋本昌美	蓮沼恒郎
長谷川尚	長谷川洋	初又惇夫	服部輝夫	浜地道雄	林 博之	林 正宏
林 義人	半林 亨	樋口龍彦	久武雅志	久本紘一	平井清文	平石 豊
平井出良彦	平岡昭三	平尾龍介	平野 勉	蛭田恒美	比留間玲子	廣内卓生
廣瀬一彦	廣田雄太郎	廣本昌也	深尾 孝	福井芳樹	福島有恒	福富直明
藤井敬三	藤井正之助	藤井宏憲	藤澤裕武	古澤陽一	逸見勝衛	星合良彦
保科 孝	星野則和	細井吉一	細谷和夫	細谷 聡	堀田恒雄	堀 典江
堀部 暁	本田 務	本間登志雄				

マ行

前田征雄	前田 孝	牧 洋生	梶潟磐夫	梶山俊次	松浦 淳	松岡秀樹
松坂 茂	松田邦夫	松田 實	松野 弘	松村信男	松村森男	松本幸子
松本寿夫	丸野 純	三浦甲蔵	三木照男	水庫博夫	水野英幸	水野隆二
水堀 勤	箕作武彦	三原 均	宮内義彦	宮尾迪子	三宅 葉	宮田信雄
宮本尚樹	宮本正博	武藤満夫	村井靖武	村上匡一	村上泰生	村澤醇治
茂木良夫	本松 巖	森 壽朗	森江健児	森田淑子		

ヤ行：

八木 隆	矢島 孝	安井修司	安武国章	八津道夫	柳沢 明	山岸正雄
山口一光	山田寛治	山田喜三	山田直一	山田廣吉	山邑陽一	山元 哲
山本昌裕	山本康雄	山本幸江	湯浅莊三郎	湯本章人	横井正豊	吉川敏朗
吉川秀夫	吉川 浩	吉木 健	吉田孝生	吉田修一	吉田俊成	吉野昭一
吉水 稔	吉本邦晴					

ワ行：

若月義和	渡辺一郎	渡辺耕一郎	渡辺重幸	渡部俊英
------	------	-------	------	------

* 「個人情報」の管理強化のため、会員名簿の発行を休止しております。

* 社友会事務局で一元管理しておりますので、ご住所など連絡先の変更、お問合せは、事務局（梶山世話人：menkwa@sojitz.com）あるいは世話人あてご連絡ください。

尚、梶山世話人は常駐ではありませんので、対応にお時間をいただくこともありますので、予めご承知おきください。

* 連絡途絶え：石川勝美 上條達雄 近藤貞一 渋谷義 芦生宏

⇒連絡先をご存じの方は、同じく事務局宛ご連絡ください。

訃 報

(前会報報告後～2023年4月判明分になります)

ニチメン東京社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	堀 江 亘	非 鉄	2022年 2月 8日	86歳
2	古 藤 彰 三	財 務	2022年 2月16日	92歳
3	※富 田 稔	化学品	2022年 8月14日	92歳
4	木 内 純 一	財 務	2022年11月 3日	95歳
5	高 木 恒 久	エネルギー	2022年11月27日	87歳
6	※松 本 信 明	プラント・航空機	2022年12月 3日	84歳
7	※難 波 靖 史	鉄鋼・機械・業務	2022年12月 4日	79歳
8	※花 崎 俊 雄	船 舶	2022年12月13日	87歳
9	金 城 弘 明	鉄 鋼	2022年12月20日	86歳
10	曾 我 宏 司	木 材	2022年12月 7日	82歳
11	松 沢 幸 雄	食 糧	2023年 1月 7日	82歳
12	※鎌 田 亮 三	機 械	2023年 1月25日	88歳
13	※岡 島 隆 司	平成メイト元社長	2023年 2月 1日	69歳
14	※菊 池 彰	石 油	2023年 2月15日	75歳
15	花 澤 和 郎	鉄鋼貿易	2023年 2月20日	81歳
16	小 野 賢 次	総務・監査	2023年 3月 3日	87歳
17	古 家 章	産業機械	2023年 4月 4日	85歳

ニチメン大阪社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	三 宅 要	織 維	2022年10月25日	82歳
2	※澤 井 栄 一	織 維	2022年 5月23日	90歳
3	中 島 恒 夫	人 事	2022年 7月15日	92歳
4	片 岡 修	電子電機	2022年 5月10日	85歳
5	井 上 拓	財 務	2023年 1月 1日	81歳
6	梅 田 幾 生	織 維	2022年12月30日	91歳
7	乾 義 和	織 維	2022年12月26日	62歳
8	神 保 慶 三	建 設	2023年 2月15日	83歳
9	松 田 惇	化学品	2023年 2月 7日	91歳
10	※藤 本 和 男	機 械	2023年 2月25日	83歳
11	田 中 隆 一	名古屋建設	2023年 2月19日	89歳
12	東 忠	元参与	2023年 4月22日	97歳

ご冥福を、お祈りいたします。合掌

会 長	石原 敬資				
副 会 長	新藤 孝				
監 事	大羽陽一郎	蛭田 恒美			
事 務 局	桢山 俊次				
世話人代表	奥村 睦夫				
世 話 人	青木 聡弥	入江 隆史	北川 幸雄	木津奈緒子	
	近藤 厚子	丹下 薫	中田 龍彦	森田 淑子	

[illegible]

世話人氏名				所属	電話番号	世話人氏名				所属	電話番号
青	木	聡	弥	人事	080-5089-7039	入	江	隆	史	合樹	042-722-5675
大	羽	陽	一郎	機械	044-871-5672	奥	村	睦	夫	木材	090-6478-1981
北	川	幸	雄	機械	044-750-9166	木	津	奈	緒子	運保	090-4014-4168
近	藤	厚	子	情シス	080-4476-1600	新	藤		孝	財務	0467-58-2763
丹	下		薫	紙パ	090-9317-5292	中	田	龍	彦	食料	03-3334-6528
蛭	田	恒	美	燃エネ	080-1110-6229	桒	山	俊	次	鉄鋼	045-942-7679
森	田	淑	子	紙パ	090-1992-1618						

連絡先変更（住所、電話番号など）、新規加入希望者のご紹介、訃報（会員・非会員・現役）、会員連絡先のお問い合わせ、ご意見、ご希望など、社友会事務局、上記世話人にお気軽にご連絡ください。

尚、Eメールでのお問い合わせは ➡ 事務局（menkwa@sojitz.com）
➡ 奥村：okmrmtos3115@gmail.com
注：アドレス変更しました
中田：tatsuhiko_nakata@yahoo.co.jp
入江：happyliife1020@ybb.ne.jp

【編集後記】

2019年以来4年ぶりの社友会総会（7月13日）を控えて、会報34号をお届けします。今号も多くのご寄稿をいただき、ありがとうございました。

本棚から「ニチメン長月会会員名簿（平成16年6月30日現在）」を取り出し、眺めてみました。昭和13年（1938年）5月発足と記され、大阪本部・東京本部・名古屋支部の男女名簿、末尾の物故者名簿を含む全130ページの大作で、今も元気な方々のお名前、物故者のお名前を拝見でき懐かしさがこみ上がります。平成18年（2006年）発足の東京社友会まで約2年の空白があるものの、85年の歴史の長さを感じております。

ロシアの暴挙と核の脅威が続く中、世界の分断危機、世界各地の天候異変（洪水、旱魃・・・）、円安、物価高、エネルギー不安、・・・が続いております。まずは、健康で安心できる日々をエンジョイできるよう祈っております。

●お知らせ：前33号記事（28ページ左欄上から19行目）筆者から訂正依頼がありました。

正：「廣岡浅子様の夫、廣岡信五郎」 誤：「広岡あさの夫・広岡政次郎」

●広報チームよりのお願い：

次号（35号）へのご投稿をお待ちしております。

会員相互の情報提供、随筆、エッセイ、珍譚奇譚、書評、同好会・同期会・OB会開催報告、アーカイブス写真（各種会合、仕事関連、課外活動等）、往年のロマンス、経験談、旅行記等、これまでの各号の掲載内容を参考にされ、ご投稿いただきますようお願い致します。

一方、ホームページの「ふれあいの広場」欄に、①「旅行」②「花や景色」③「読書感想文」④「温泉情報」⑤「健康」⑥「趣味」⑦「美味しい食べ物の店や食べ方」の7つのジャンルを設けておりますので、内容をご覧の上、随時ご投稿ください。

尚、お写真、直筆原稿などは、奥村／中田／入江（いずれか）あて郵送していただければ当方でスキャンし、PCなどに取り込み保管、用済み後に返却いたします。

●投稿文・写真など送り先、問合せなど ➡ 奥村：okmrmtos3115@gmail.com ←変更しました

中田：tatsuhiko_nakata@yahoo.co.jp

入江：happyllife1020@ybb.ne.jp

郵送の場合 ➡ お手数ですが、上記メールあるいはお電話にてお問合せください。

●会報次号（35号、2023年12月01日発行予定）へのご寄稿の締め切り

➡ 2023年10月31日（火）

（奥村 睦夫）

ニチメン東京社友会

〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビルディング8F

会報発行人：石 原 啓 資

編集担当・広報チーム

リーダー：奥 村 睦 夫

メンバー：中 田 龍 彦 入 江 隆 史

森 田 淑 子

印 刷 所：有限会社 関 内 印 刷